

平成 27 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 27 年 4 月～平成 28 年年 3 月

1. 学校概要

学校名 愛媛県立新居浜南高等学校

種別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫教育
☐ 中学校 ☒ 高等学校 ☐ 中等高等学校
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育
☐ その他 ()

住所 〒792-0836

愛媛県新居浜市篠場町 1 番 32 号

E-mail : niish-ad@esnet.ed.jp

Website : http://niihamaminami-h.esnet.ed.jp/

児童生徒数：男子 105 名 女子 250 名 合計 355 名

児童・生徒の年齢 15 歳～18 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☒ 国際理解
- ☒ 世界遺産
- ☒ 平和・人権
- ☒ 環境
- ☐ 気候変動
- ☐ 生物多様性
- ☐ エネルギー
- ☐ 防災
- ☐ 食育
- ☒ 伝統文化
- ☐ そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

平成27年度主な活動一覧

[] :主催、無は本校主催 () :開催場所

月	日	内 容
4	19	第28回 ESD 中学高校連携事業「別子銅山を学ぼう！」新居浜市立角野中学校 1年生?名
	20	ベルー共和国国會議員、駐日ベルー大使の別子銅山視察をユネスコ部員が案内
	25	別子銅山登山研修および船木中学校合同の登山道安全及びルート確認
	28	「ライフスタディⅡ」課題研究『あかがねの道～別子銅山から ESD (持続発展可能なまちづくり) を学ぶ～』東平地区フィールドワーク①
	30	第8回あかがねの道スタディーツアー最終打ち合わせ
5	2	四国島クルージング事前研修
	3	別子山地区取材活動
	5	東平地区スタディーツアー事前研修
	7	第29回 ESD 中学高校連携事業「別子銅山を学ぼう！」新居浜市立船木中学校
	8	第30回 ESD 中学高校連携事業「別子銅山を学ぼう！」新居浜市立泉川中学校
	9	第8回あかがねの道スタディーツアー
	15	「煙突物語」展の見学 [新居浜建設技能労働組合]
	16	新居浜ユネスコ寄席～つなげよう平和の心～ [新居浜ユネスコ協会主催]
	22	ライフスタディⅠ「別子銅山近代化産業遺産フィールドワーク in 山根エリア事前学習会」
	23	別子銅山に関する本の解説講座『別子銅山を読む』『別子物語』[別子銅山記念図書館]
	26	「ライフスタディⅡ」課題研究『あかがねの道～別子銅山から ESD を学ぶ～』山根地区
6	26	第1回図書館学習会「別子銅山を学ぼう！」[別子銅山のBIG4]
	29	ライフスタディⅠ「別子銅山 近代化産業遺産 フィールドワーク in 山根エリア」
	30	ツガザクラ鑑賞会 (旧別子地区) [東子信用金庫および本校]
	1	東子信用金庫本店でのユネスコ部活動パネル展開催 [東子信用金庫]
	5	夏休みアドベンチャーサイクリング 「別子銅山のヒミツを解き明かせ!!」打ち合わせ [愛媛県東子地方局]
	7	別子銅山の歴史を学ぶ会「鷲尾勘解治と新居浜」[別子銅山の歴史を学ぶ会]
7	9	「ライフスタディⅡ」課題研究『あかがねの道～別子銅山から ESD を学ぶ～』愛媛県総合科学博物館
	9	「ESD 環境プロジェクト事業」東子地区三校合同研究計画報告・検討会 (新居浜工業)
	16	平成27年度「別子銅山産業遺産創造塾」養成講座① [新居浜市別子銅山文化遺産課]
	18	第2回図書館学習会「別子銅山を学ぼう！」『Let's go 広瀬 House!』
7	2	ユネスコスクール校内教職員研修 講師：鳴門教育大学副学長 近森憲助先生
	3	第31回 ESD 中学高校連携事業「別子銅山を学ぼう！」新居浜市立北中学校
	3	東子信用金庫泉川支店でのユネスコ部活動パネル展開催
	4	旧広瀬邸と広瀬歴史記念館での現地研修
	4	『あかがねミュージアム』バリアフリー調査 [NPO 法人四国バリアフリースターセンターおよび本校]
	8	広げようボランティアの輪～ESD パスポートを全校生徒で活用しよう!～
	8	第32回 ESD 中高連携事業「別子銅山を学ぼう！」新居浜市立角野中学校～東平地区現地研修～
	9	全校奉仕活動で全校生徒が1 ボラン獲得
	12	平成27年度「別子銅山産業遺産創造塾」養成講座②
	15	第3回図書館学習会「別子銅山を学ぼう！」フィールドワーク in 旧広瀬邸・広瀬歴史記念館
	17	文部科学省生涯学習政策局社会教育課長 谷合俊一氏 ユネスコ部視察 [文部科学省]
	18	「新居浜ユネスコ寄席」活動パネルの展示 [新居浜ユネスコ協会および本校]
	19	あかがねミュージアムオープニングイベント「スペシャルバラエティショー」[新居浜市]
	20	別子銅山産業遺産創造塾事前研修
	21	JR 東海相談役・産業観光推進会議委員 須田 寛氏 講演会 [新居浜商工会議所]
	21	新居浜市議会議員 (篠原茂氏、高塚廣義氏、神野恭多氏) ユネスコ部視察
8	22	平成27年度愛媛県新規採用教員 新居浜地区地域研修「あかがねの道スタディーツアー」
	23	「東子の誇れる産業遺産 (たから)」スタディーツアー事前打ち合わせ [愛媛県東子地方局および本校]
	24	夏休みアドベンチャーサイクリング 別子銅山のヒミツを解き明かせ!! 事前打ち合わせ
	30	「東子の誇れる産業遺産 (たから)」スタディーツアー
	1	第5回『平和の鐘を鳴らそう』[新居浜ユネスコ協会と本校]
	1～2	平成27年度「別子銅山産業遺産創造塾」養成講座③
	4	『銅山人の詩～別子銅山および戦争体験者からの聴き取り調査～』松岡達也氏
	5	平成27年度 ESD 研修会 (講演会) [新居浜市教育委員会]
	9	夏休みアドベンチャーサイクリング「別子銅山のヒミツを解き明かせ!!」[愛媛県東子地方局と本校]
8	22	平成27年度別子銅山産業遺産創造塾『修了認定審査』
	23	「とっておきの新居浜検定」受験 [新居浜商工会議所]
	24	日本観光振興協会総合研究所長 丁野 朗氏 講演会 [新居浜商工会議所]
	27	立教大学 阿部治氏および環境省四国環境パートナーシップオフィス (四国 EPO) 溝淵雅子氏 ユネスコ部視察
	29	東平・第三地区および出雲地区の現地取材活動

月	日	内 容
9	18	第4回図書館学習会「別子銅山を学ぼう！」『伊庭の時代へタイムスリップ!!』
	21～22	旅行ライター 岡哲文氏 東平地区・端出場地区・旧別子地区視察の案内
	26	そうびらき親月会 [新居浜市憩園公民館]
	29	「ライフスタディⅡ」課題研究『あかがねの道～別子銅山から ESD を学ぶ～』 東平地区フィールドワーク②
10	1	中国人帰郷者慰霊祭 [日中友好協会] (瑞心寺)
	3	夏井いつきと巡る 東洋のマチュピチュ東平 別子銅山産業遺産 俳句 ing Walking [新居浜市観光協会]
	5	第33回 ESD 中学校連携事業「別子銅山を学ぼう！」新居浜市立川東中学校
	7	「ESD 環境プロジェクト事業」東予地区三校合同中間報告会 (新居浜東高校)
	9	第34回 ESD 中学校連携事業「別子銅山を学ぼう！」新居浜市立中萩中学校
	10	スターディーツアーに向けて四国島洋上研修
	12	別子山地区取材活動
	13	「ライフスタディⅡ」課題研究『あかがねの道～別子銅山から ESD を学ぶ～』 東平地区フィールドワーク③
	16	岐阜県立可児高等学校 浦峰太郎先生 ユネスコ部視察
	19	第35回 ESD 中学校連携事業「別子銅山を学ぼう！」新居浜市立東中学校
	22	別子銅山記念館研修会～住友化学開業 100 周年回想写真展～
	23	第5回図書館学習会「鷲尾 story—鷲尾勘解留—」
11	26	第9回新居浜建技労塾「別子銅山・石見銀山」への誘い」学習成果の発表
	27	「ライフスタディⅡ」課題研究『あかがねの道～別子銅山から ESD を学ぶ～』住友化学歴史資料館・達登志橋の見学
	30	ユネスコ部 文化祭でみきゃんとコラボ! [愛媛県東予地方局]
	30	文部科学省 生涯学習政策局長 河村潤子氏 ユネスコ部視察
	3	平成 27 年度 ESD 環境教育プロジェクト事業 第1回東予地区三校合同研修会～東平地区フィールドワーク～
	5	「産業社会と人間」～新居浜の歴史と産業～で講師を務めました!
	10	「ライフスタディⅡ」課題研究『あかがねの道～別子銅山から ESD を学ぶ～』フィールドワーク④
	14	『別子銅山の近代化を支えた端出水力発電所～大正期の電力事情～』講師:元住友共同電力社員 吉川武氏 [別子銅山記念図書館]
	14	足尾銅山現地研修準備～銅板レリーフでネームプレートを制作しました!～、足尾銅山現地研修事前学習会
	21	足尾銅山現地研修 1 日目～世界文化遺産「日光の社寺」の見学～
12	22	足尾銅山現地研修 2 日目～足尾銅山の見学と植樹体験～
	23	足尾銅山現地研修 3 日目 (最終日)～東京・橋正成銅像の見学～
	26	「産業社会と人間」『別子銅山近代化産業遺産フィールドワーク 旧広瀬園訪問』事前学習会
	4	第36回 ESD 中学校連携事業「別子銅山を学ぼう！」新居浜市立南中学校
	5～6	第8回地域教育実践交流集会にて活動発表 (国立大洲青少年交流の家)
	10	「別子銅山 近代化産業遺産フィールドワーク in 旧広瀬園」を実施しました!
	15	「ライフスタディⅡ」課題研究『あかがねの道～別子銅山から ESD を学ぶ～』口屋跡公民館・別子銅山鉄道星越駅舎訪問
1	16	「高校生と一緒に別子銅山を探検しよう! in 角野」[角野公民館] 角野小学校 6 年生 120 名?
	18	新居浜市家庭クラブ交歓会～銅の折り鶴づくり～
	22	平成 27 年度 ESD 環境教育プロジェクト事業 第2回東予地区三校合同研修会 [新居浜工業高校]
	23	平成 27 年度学校間交流研修会を開催しました! (今治北高校大三島分校)
		[広島県立瀬戸田高校、立川南高校、今治北高校大三島分校、新居浜南高校]
	24	3次元レーザースキャナを利用した別子銅山の近代化産業遺産の撮影報告会① [新居浜市別子銅山文化遺産課]
2	4	「大迫 (おほぼく) の唄奉納」の見学
	4	マイントピア別子で今治北高校大三島分校生徒と交流学習を行いました!
	10	平成 27 年度スポーツ推進委員新年研修会でガイドを務めました!
	16	泉川ふるさと塾「とっておきの 別子銅山 近代化産業遺産巡り」
	18	文部科学省初等中等教育局参事官付参事官補佐 廣田 貴 氏 ユネスコ部視察
	28	第37回 ESD 中学校連携事業「別子銅山を学ぼう！」新居浜市立川東中学校との交流学習
3	31	「別子銅山を学ぼう！」～地域の宝を学びましょう～ [憩園公民館]
	3	3次元レーザースキャナ導入による別子銅山の産業遺産保存・活用プロジェクト検討会②
	7	『別子銅山パネル展 in 新居浜』において活動報告・ワークショップ [東予地方局] [別子銅山記念図書館]
	10	平成 27 年度「ESD 環境教育プロジェクト」発表会を開催 (新居浜南高校体育館)
	13	平成 27 年度国際教育オープンフォーラム [徳島教育大学] (徳島教育会館)
	19	第8回図書館学習会「バーチャルで巡る別子銅山 近代産業遺産」
3	20	新居浜市まちづくり協働オフィス市民活動交流会 [新居浜市まちづくり協働オフィス] (リーガロイヤルホテル新居浜)
	21	新居浜グローバルパーティー [新居浜グローバルパーティーを楽しむ会・SGG] 15 か国 (外国人 71 名) 約 370 名 (新居浜ウイメンズプラザ)
	5	四国 ESD 実践者集会 [環境省中国四国地方環境事務所高松事務所] (高松市センタービル)
	6	TOYO 産業遺産交流・学習会 [愛媛県東予地方局] (愛媛県上島町)
3	12	第1回高校生フェスティバル [高校生ボランティアサークル MAY・ユネスコ部] (あかがねミュージアム)

[] : 主催、無は本校主催 () : 開催場所

1 はじめに

本校はユネスコスクール認定5年目の節目の年となりました。

校内的には、ユネスコスクールとしての意義の理解が浸透し始め、ESD活動への関心も広がってきていると感じています。

特に、今年度は愛媛県教育委員会の主催する「ESD環境教育プロジェクト事業」の指定を受けるなど、学校全体として取り組めたことが、ユネスコスクールとして、大きな進展を得る貴重な機会となりました。

校外的には、新居浜市内全ての小・中学校がユネスコスクールとして2年目を迎え、高校との連携も少しずつ広まりをみせ、小・中学校合同の「ESD学習成果発表会」も開催されるなど、市全体としての機運も高まってきています。

今年度も学校、地域、企業、NPOなどとの連携の絆はさらに深まりを見せ、さまざまな活動のチャンスを生み、多岐に渡る充実した活動を行うことができました。

2 主な活動内容について

(1) 第28回ESD中学高校連携事業「別子銅山を学ぼう！」新居浜市立角野中学校【4月19日】

新居浜市内の全ての小・中学校がユネスコスクールとなり、その記念すべき第1回目の事業ともなりました。

中学校の体育館において、3年生109名を対象に1時間余り開催させていただきました。質問に積極的に挙手をして答えていただくなど、中学生の皆さんのおかげで充実した学習ができたと思います。生徒の代表からは「別子銅山について、おもしろく、楽しく教えていただき、昔の人たちの苦勞も知ることができました。」と感想をいただきました。



総勢11名でお伺いさせていただきました



クイズで学習を振り返っている様子

(2) ペルー共和国国会議員、駐日ペルー大使の別子銅山視察をユネスコ部員が案内【4月20日】

ペルー共和国カルメン・オモンテ国会議員と駐日ペルー大使エルラド・エスカラ氏らが別子銅山の東平地区と端出場地区を視察され、その案内役を新居浜南高校ユネスコ部が務めさせていただきました。

始めに、東平歴史資料館へ到着された一行は、別子銅山の歴史的役割やユネスコ部の活動についてプレゼンテーションをご覧いただきました。発表は英語で行いました。私たちの発表にうなずきながら、時折カメラで記録されるなど、とても熱心にお聴きくださいました。その後、別子銅山の地形、東平劇場、小学校、社宅等を再現したジオラマについて、クイズを交えながらご案内させていただきました。クイズの正解時には飛び上がって喜んでいただくなど、和やかな雰囲気で見学していただきました。

ペルーの要人の方々のご案内とあって、緊張の連続でしたが、一人一人が自分の役割を精いっぱい務め、時にはお互いに助け合うなどの活躍ぶりでした。お別れの際には、部員一人一人に握手してくださるなど、大変お喜びいただいたご様子の視察となりました。私たちユネスコ部一同にとっても、ペルーと新居浜との懸け橋としての役割を担うことができ、重責を果たした安心感と、皆様に喜んでいただいた満足感で感動の一日となりました。今日の日のことを大切に、次の

活動へとさらにステップアップしていきたいと思います。今後ますますペルーと新居浜の関係が深められるよう、私たちもお手伝いして行きます。



記念撮影をさせていただきました



別子銅山のジオラマを説明している様子
(中央赤い服の方が国会議員、その左隣が駐日大使)

(3) 別子銅山登山研修および船木中学校合同の登山道安全及びルート確認【4月25日】

ユネスコ部では新入部員を迎えての初めての別子銅山登山研修と船木中学校の先生方と合同で登山道の安全およびルート確認を行いました。快晴の下、ミツバツツジの紫色と新緑になりつつある木々の葉に春の光が穏やかにふり注ぐ中、爽やかな登山日和となりました。

今回は新居浜市立船木中学校の先生方とも合同で登山を行いました。船木中学校では5月8日に別子銅山への登山を計画しています。そのため、事前の登山道の安全とルート確認の必要があります。ルートは、別子山地区の日浦（標高約800m）から銅山越え（標高約1300m）までの往復で行いました。銅山が優しく迎えてくれる中、別子銅山の近代化産業遺産に触れ、先人たちの姿に想いを馳せました。



登山研修の様子



銅山越えにて記念撮影

(4) 総合的な学習の時間「ライフスタディⅡ」

課題研究『あかがねの道～別子銅山からESD（持続発展可能なまちづくり）を学ぶ～』

東平地区①【4月28日】

3年次生の総合的な学習の時間「ライフスタディⅡ」において課題研究が行われました。

総合分野を選択している生徒は『あかがねの道～別子銅山からESDを学ぶ～』をテーマとして取り組んでいます。

今回は、初夏に向かおうとする東平地区へのフィールドワークを実施しました。始めに、東平貯鉱庫跡を駐車場から見学しました。そして、新たに設置された山岳鉱山鉄道跡のパネルを見学しました。このパネルには、素晴らしい工夫が施されています。透明のパネルに鉄道のラインが描かれ、現在の風景と重ねて見ることができます。その後、東平歴史資料館に移動し、歴史年表や地形ジオラマ、銅の体験コーナーなどで別子銅山の歴史を体験して、少ない時間でしたが内容の濃いフィールドワークとなりました。



東平歴史資料館の前にて



山岳鉱山鉄道跡を確認している様子

(5) 第8回あかがねの道スタディーツアー最終打ち合わせ【4月30日】

本校において、5月9日に開催予定のツアーについて、せとうち観光社の松本直樹様と最終打ち合わせを行いました。

大変好評で、募集定員を超える32名の方からご予約をいただき、締め切り1日前をもって募集の停止をさせていただきました。

本日は、行程表に沿って、内容を一つ一つ押さえながら、案内時間の配分、移動手段やルートの確認、疑問点などを出し合いました。



旅行業者との打ち合わせの様子



ツアーのポスター

(6) 四阪島クルージング事前研修を行いました！【5月2日】

1週間後に控えた「あかがねの道スタディーツアー」で実施する四阪島クルージングの事前研修を行いました。

快晴の空の下、波も無く最高の日和となりました。

新居浜市の沢津漁港から、小型船舶をチャーターして出航し、穏やかな海面を滑るように走り、30分ほどで四阪島へ到着しました。

ツアーのコースに従って船を移動しながら、島内の近代化産業遺産の場所と説明ポイントを確認し、ガイドの模擬練習も行いました。不安があれば、途中引き返すなど、徹底して研修を行いました。

今回事前研修を行ったのは、ユネスコ部の2・3年次生の4名でした。小型船舶の定員の関係で、残念ながら1年次生は参加することができませんでした。

船長さんのお話では、これだけ日和のいい時はめったにないとのこと。

最高のチャンスをいただき、最高のおもてなしでツアーができるよう、今日の研修の成果を1年次生とも共有してツアーへ活かして行きます。



船上から見た四阪島の様子



ガイドの模擬練習をしている様子

(7) 別子山地区取材活動【5月3日】

別子銅山発祥の地である新居浜市別子山地区へ新年度の活動のごあいさつやご報告を兼ねて取材活動を行いました。

はじめに、別子銅山にゆかりの深い南光院本坊圓通寺へごあいさつにお伺いし、ご住職の妻鳥良全さんに新入部員の紹介や活動のご報告をさせていただきました。そして、1年間の活動の安全と充実した活動を願ってお参りさせていただきました。その後、クマガイソウ（環境省より絶滅危惧種の指定を受けている貴重な山野草）を育てられている旧近藤清さん（清じいちゃん）のお宅へお伺いしました。

50年余りに近藤清さんがご自分の山から一株のクマガイソウを庭に植え、大切に育てられ、その数は400株以上にもなりました。4月下旬から5月上旬の2週間の間だけ花を咲かせます。その見事さは口コミで広がり、多い時には8,000人を超えるまでの人が鑑賞に訪れるほどとなりました。

10年程前に清さんはお亡くなりになりましたが、ご家族が大切に保護されて、今年も見事な花を咲かせ、今ちょうど見ごろを迎えています。しかし、栽培が非常に難しく、年々その数は減少しています。クマガイソウは清じいちゃんの分身のように思います。私たちもクマガイソウの保護に何かお手伝いできないかと考えます。

取材活動の最後は、森林公園ゆらぎの森の日本最大級の直径45メートルのドーム型藤棚「バーゴラ」の下でお弁当を食べました。今年は少し早く藤の花も姿を見せていました。5月10日には見ごろを迎え、「バーゴラ祭り」が開催されます。



南光院でのお参りの様子



クマガイソウを守られている
近藤貞美さん（写真中央左）と記念撮影

(8) 東平地区スタディーツアー事前研修【5月5日】

絶好の五月晴れの下、1年次生も参加して東平地区においてスタディーツアーの事前研修を行いました。

ゴールデンウィーク真っただ中でもあり、午前中には駐車場が満杯になるなど、大変な混雑ぶ

りでした。各案内場所への移動方法や時間配分、解説者の立ち位置や資料提示の方法、マイクの使い方などを確認し、実際に案内の練習も行いました。ちょうど来場されている方にもご覧いただき、実戦さながらの研修を行いました。しかし、説明内容の不備や手順の悪さなど多くの課題も見つかりました。ツアー当日には万全の態勢で臨めるよう、残された時間を大切にして精いっぱい準備を行います。



先輩から研修を受けている様子



来場されている方を前にガイド練習している様子

(9) 第29回 ESD 中学高校連携事業「別子銅山を学ぼう！」新居浜市立船木中学校【5月7日】

中学校体育館において、1年生 58 名を対象に別子銅山登山事前学習を行いました。

今回 1 年次生のユネスコ部員にとっては中学校での出前講座デビューの日となりました。出発直前まで練習を重ねてきたかいがあって、落ち着いた発表が行えていました。

3 年次部長の天野明くんは、教員と間違えられるほど立派に務める姿に中学校の先生方が驚かれました。

バーチャル登山では、先日船木中学校の先生方と調査したルートの危険箇所なども改めて確認しました。中学生の皆さんは、質問など積極的に挙手をして答え、クイズでは大きくジェスチャーをしてくれるなど、明るく楽しく学んでくれました。

また、中学生の皆さんの中には、以前私たちのイベントで小学生の時に参加してくれた生徒の姿も見え、懐かしくあいさつを交わせるシーンもあり、とても嬉しかったです。

最後に、生徒の代表からは「今日の学習を心にしっかりと心に刻んで、安全に楽しい登山にしたい」と感想をいただきました。さっそく明日の登山に今日の学びを活かして欲しいと思います。



クイズで盛り上がっている様子



銅鉾石を興味深く見る中学生の様子

(10) 第30回 ESD 中学高校連携事業「別子銅山を学ぼう！」新居浜市立泉川中学校【5月8日】

中学校体育館において、1年生 90 名を対象に別子銅山登山事前学習を行いました。

中学校でふさと学習の一環として別子銅山登山学習が始まり、同時に中学校との連携を開始させていただき、今年で 4 年目を迎えました。そして、今回で 30 回目の節目を迎えることができました。

今回訪問させていただいたのは、2 年次生の谷下華さん、寺尾遥さん、永易舞さんの 3 名です。

泉川中学校は谷下さんと寺尾さんの母校です。
 真剣なまなざしで、質問にも積極的に答えてくれるなど、1時間余りがあっという間でした。
 生徒代表からは、「今日学んだことを来週末の登山に活かしたい」との感想をいただきました。



積極的に手が上がっている様子



インクラインの模型を触ってもらっている様子

(11) 第8回あかがねの道スタディーツアー開催【5月9日】

別子銅山開坑記念日に第8回目となる「別子銅山 近代化産業遺産 山・浜・島あかがねの道スタディーツアー」を開催しました。

神奈川、大阪など県内外から定員をオーバーする34名の方がご参加くださいました。昨年の東京の別子銅山展でお逢いさせていただいた方も遠いところをご参加くださいました。

今回のツアーは、第1回観光甲子園準グランプリとなった観光プランを商品化したもので、最初のモニターツアーから通算10回目、5年目の節目となるものでした。



2台のバスに分乗している様子



雨天のガイドでお客様に傘を差しかけていただいている様子



別子銅山の大動脈のトンネルを案内している様子



先人を紹介した手作りの紙芝居を披露している様子



クルージングでのガイドの様子



ツアーご参加の皆さんと記念撮影

午前中は小雨の降るあいにくのお天気となりました。ただ、雨や霧のかかる東平の風景も味があって好いといった感想をお聞きして、ほっとする場面もありました。

今回のツアーの目玉の「歓喜の光」は弱い光でしたが、田尾邦雄館長さんのご配慮により館内全消灯の中で、大きく広がる歓喜の光が現れ、その光を全身で浴びることができました。

その後、端出場に戻り、ユネスコ部で観光坑道をご案内させていただきました。時間に追い込まれる中、1年次生の奮闘により時間調ができました。

そして、特別公開の旧端出場水力発電所を見学。新居浜市別子銅山文化遺産課の秦野親史課長さんより解説をいただきながら、明治期の空気が漂うレンガ造りの建物内をゆっくりと見学していただきました。

その後、ようやくお天気が回復に向かう中、今年3月に完成したばかりの鷺尾勘解治顕彰公園（自彊舎跡）において、本校家庭クラブ制作の紙芝居「鷺尾勘解治物語」をご披露し、大変喜んでいただきました。

そして、いよいよ四阪島クルージングに向かいました。穏やかな波に恵まれ順調に航行し、四阪島に到着すると、皆さん待ちかねたようにデッキに上り、島の様子を熱心に見入っておられました。

旅の締めくくりは、サンセットクルージングで夕日に染まる瀬戸内海を眺めながらゆったりとしたお時間を楽しんでいただきました。

帰りのバスを降りられる際には、皆さんから笑顔でお礼の言葉をいただき、私たちも感動のうちにツアーを締めくくることができました。

今回、大所帯となったユネスコ部員 11 名全員が素晴らしいチームワークぶりを発揮し、悪天候も吹き飛ばすほどの充実した楽しいツアーにできたと思います。しかし、ここで満足するのではなく、しっかりと振り返り、反省を行い、お客さまにさらにご満足いただけるツアーが実施できるよう、頑張ってまいります。

(12)「煙突物語」展の見学【5月15日】



伊藤さんに耐火煉瓦の説明をお聞している様子



環境整備の変化を説明していただいている様子

新居浜建設技能者労働組合が主催する「煙突物語」展が、組合 2 階の輪音ホールにて開催されました。

別子銅山の山根製錬所跡の煙突を照らし続ける伊藤保次氏がこれまで長年かけて撮影した写真や収集した資料などが一堂に展示されています。

煙突は現在国の登録有形文化財に指定されており、登録に向けた改修前の貴重な写真、煙突の天辺に生えていた植物、レンガや詳細な図面など初めて目にする物ばかりでした。

伊藤さんより煙突に使用されたレンガの特徴や活動のご苦労について詳しくご紹介いただきました。

新居浜南高校では、5 月 29 日に 2 年次生全員で煙突の立つ生^{しょうじやま}子山、通称・えんとつ山へフィールドワークを行います。煙突内の貴重な写真などもいただくことができました。今日の学びを事前学習で役立てさせていただき、より充実した学習に向けて準備して行きます。

(13) ライフスタディ I 「別子銅山近代化産業遺産フィールドワーク in 山根エリア事前学習会」

【5 月 22 日】



実演を交えて説明している様子



事前学習会の様子

2 年次生の総合的な学習の時間「ライフスタディ I」において、「別子銅山近代化産業遺産フィールドワーク in 山根エリア事前学習会」を本校会議室にて開催しました。

講師はユネスコ部 2 年次生の寺尾遙さん、谷下華さん、永易舞さんが務めました。

本校は今年度より、山根エリアのフィールドワークを実施することとなりました。

その目的は、工業都市新居浜の礎である別子銅山の近代化産業遺産について現地を訪れることで、先人たちの想いに触れ、シビックプライド（ふるさとへの愛着や誇り・自信）を育てることです。

特に本校周辺である山根エリアには、別子銅山記念館をはじめ、山根製錬所跡の煙突や現役の山根収銅所、山根グラウンドなど、数多くの近代化産業遺産があり、併せて自然環境も豊かです。

本年度、愛媛県教育委員会主催による「環境 ESD プロジェクト事業」の指定校として取り組みも始めています。

そこで、別子銅山の約 300 年の歴史の中で、先人たちの環境問題への取り組みにスポットを当てるとともに、山根エリアで『えんとつ山倶楽部』の方たちが長年取り組まれてきた環境保護活動についても知り、持続可能な地域をつくるためフィールドワークを通して体験し学ぶことも目的としています。

来週の 5 月 29 日の実施に向けて、生子山（通称：えんとつ山）の山頂を目指すバーチャル・フィールドワークを行いながら、山根エリアの別子銅山の近代化産業遺産について、それらの歴史や意義を学習しました。

また、煙突を自費でライトアップされている伊藤保次さん（本校卒業生）や『えんとつ山倶楽部』の皆さんのご紹介もさせていただきました。

(14) 別子銅山に関する本の解説講座『別子銅山を読む』第1回目「別子物語」【5月22日】



講師を務められた坪井利一郎氏



講座会場の様子

別子銅山記念図書館において、本年度初めてとなる『別子銅山を読む』が開催されました。

第1回目は「別子物語」(朝日新聞松山支局編)が紹介されました。

講師は、元新居浜市別子銅山文化遺課長の坪井利一郎氏が務められました。

本校からは図書委員、ユネスコ部員の総勢16名が聴講させていただきました。

本校は昨年度より図書館教育の指定校として取り組んでおり、市立図書館との連携事業の一環としても実施させていただいています。

はじめに、本となる記事が掲載された昭和47年は、坪井氏が市役所に勤めるようになった年であったこと、そして初めて別子銅山に登り感動したことが、現在のライフワークとしての取り組みにつながっていることが話されました。

そして、43年ぶりに読み返していく中で、気になった個所について、ひとつひとつ詳細な解説をいただいた。

また、この本が出版された頃は別子銅山関連の書籍は3冊ほどしか無かったことのこと。しかし、現在手元には210冊にもなっており、研究が進んでいるとのことでした。

今年の講座で、別子銅山の歴史がさらに紐解かれていることが楽しみです。

(15) 「ライフスタディⅡ」課題研究『あかがねの道』山根地区フィールドワーク【5月26日】



サツキが開花した別子銅山記念館を背景に記念写真



山根製錬所跡の煙突について説明している様子

3年次生の総合的な学習の時間「ライフスタディⅡ」において課題研究が行われました。

「総合」を選択している生徒は、学校周辺となる山根地区へのフィールドワークを行いました。事前学習した内容を現地で発表しました。

始めに、えんとつ山(生子山)の頂上に登り、初夏を迎えようとする新居浜の街を展望しました。新居浜南高校の校舎やグラウンド、さらには建設中の「あかがねミュージアム」、遠くは瀬戸内海に浮かぶ四玖島まで見ることができました。また、快晴の青空にレンガの赤い色が映えてとても眩しかったです。

さらにはタイミング良く、別子銅山記念館の屋根に植えられた1万本のサツキは花を咲かせ、色鮮やかなピンクで彩られている様子も鑑賞できました。

別子銅山記念館の館内の展示見学や屋外展示場にある別子1号機関車、山根グラウンド、山根収銅所なども見学しました。

今日の学習を通して、普段見慣れている場所を詳しく知ることができ、新たな発見や驚きがありました。初夏を思わせるような暑さでしたが、綺麗な景気が見られて頑張った甲斐もありました。

(16)「図書館学習会「別子銅山を学ぼう！」第1回『別子銅山のBIG4』【5月26日】



講師の永易さん、寺尾さん、谷下さん（写真左より）



図書館での学習会の様子

今年度、図書委員会では、生徒の皆さんの「学び」を広げるための活動として、別子銅山をテーマに学習会を開催します。

その第1回目が放課後、本校図書館を会場に開催されました。

講師は、ユネスコ部新部長の寺尾遥さん。新副部長の谷下華さん、同じく新副部長の永易舞さんが務めました。

『別子銅山のBIG4』と題して、別子銅山に貢献した人物、広瀬幸平、伊庭貞剛、鈴木馬左也、鷲尾勘解治の4名にスポットを当てて学習しました。

それぞれの方のプロフィール、貢献の内容などをクイズにして、高校生の視点から展開していききました。

東予地方局が制作した「別子銅山のあゆみ」を教材として利用させていただきました。

また、今回はパワーポイントなどを用いず、あえて紙ベースの資料を用いた学習スタイルとしてみました。

ところで、参加者はなんと35名もあり、図書館は学習の熱気に包まれていました。

学習の最後には人気投票も行いました。その結果、わずかの差で1位は伊庭貞剛、2位は広瀬幸平、3位は鷲尾勘解治、4位は鈴木馬左也でした。

参加者からは、楽しく学べて次回の学習会への期待が膨らんだとの感想もいただきました。

30分の短い間にポイントを絞った展開方法もよかったようです。ただ、板書の方法や説明の仕方など、まだまだ改善点もありました。次回に向けて頑張ります。

(17)「別子銅山 近代化産業遺産 フィールドワーク in 山根エリア」を実施【5月29日】

2年次生（117名）が、総合的な学習の時間「ライフスタディⅠ」において、山根製錬所跡の煙突がそびえる生子山（しょうじやま）標高約145mへ登りました。

学校を出発し、途中ゴミ拾いを行いながら、えんとつ山へ徒歩で向かいました。

えんとつ山入口では『えんとつ山倶楽部』（以下、倶楽部）の皆さんにお出迎えいただき、ご案内もしていただきながら、山頂に向かいました。

到着後、山頂において、倶楽部代表の直野菅男さんより活動メンバーの紹介や倶楽部の概要についてご紹介いただきました。また、妻鳥俊彦さんからは、活動にかける想いをお話いただき、薦田陽之介さんからは、具体的な環境整備の方法や成果についてお話しいただきました。

その後、新居浜市街地の景色を展望し、山頂の環境整備も行いました。

さらに、奥宮の見学も行い、景色を楽しんだ後、倶楽部が整備した2つの登山道を2班に分かれて下山しました。

途中、山根グラウンド上部の環境整備についても見学をして、帰校の途につきました。

初夏を思わせる暑い中でしたが、生徒たちは真剣にお話をお聴きし、別子銅山の近代化産業遺産にも触れ、楽しみながら充実した学習を行うことができました。

生徒からは「地域を知ること、地域を大切にしたいと思うようになる」との言葉も聞かれるなど、初めての試みでしたが、本当に大きな成果があったと実感できました。



登山の様子



えんとつ山倶楽部の方の説明の様子



えんとつ山から市街地を展望している様子



えんとつ山周辺の環境整備の様子

(18) ツガザクラ鑑賞会【5月30日】



銅山越え（標高約1300m）にて記念写真



ツガザクラ



アカモノ

ユネスコ部では毎年恒例のツガザクラ（県指定天然記念物）の鑑賞会を行いました。

今回は東予信用金庫と連携事業として、秦顧問様をはじめ3名（内1名はこの春入社した本校卒業生）の方と共に実施しました。

今年は、ツガザクラの開花時期から 2 週間ほど過ぎていたようで、残念ながら、一面に咲いている状態は見られなかったものの、わずかではありましたが、一部は塊の状態で鑑賞することができました。

本物を初めて目にした 1 年次生は、熱心にカメラのシャッターを切っていました。また、アカモノ（県指定天然記念物）がちょうど開花の時期を迎えて、ツガザクラとのコラボレーションも素敵でした。

当初青空が広がる爽やかなお天気でしたが、予報通り銅山越えに到着した 13 時頃には曇り空に変わっていました。

ツガザクラの鑑賞後、昼食を取り下山の際には小雨がぱらつき始めていました。幸い木々の新緑の葉に遮ってもらい、さほど濡れることもなく無事下山することができました。

さらに今回は、7 月に控えた中学校との登山学習の登山道の安全及びルート確認とリハーサルも兼ねています。

部員たちは、予習してきた内容を東予信用金庫の皆様にご案内させていただきました。また、現場での立ち位置や解説方法などを部員相互に確認し合いました。そのことを通して、解説内容の不備や多くの課題を見つけることができました。

今後しっかりとした準備を行い、別子銅山との素晴らしい出逢いを中学生にうまくコーディネートできるよう頑張ります。

(19) 東予信用金庫本店でのユネスコ部活動パネル展開催【6 月 1 日～6 月 30 日】



パネルを解説している様子



皆さんと記念写真

東予信用金庫本店営業部（新居浜市中須賀町 1-6-37）のロビーにてユネスコ部の活動パネル展を 1 か月間開催させていただきました。

パネルの内容は、情報科学部からユネスコ部への 15 年に余る活動の軌跡について紹介したもので、50 枚ほどのパネルから構成されます。

別子銅山のホームページづくりからスタートした活動の草創期からガイドブックの制作、観光甲子園へのチャレンジ、スタディーツアーの商品化、四国初のユネスコスクール認定、国際交流プログラムへの参加など、名シーンを切り取ってご紹介しました。

(20) 別子銅山の歴史を学ぶ会「鷲尾勘解治と新居浜」【6 月 7 日】

マイントピア別子にて別子銅山の歴史を学ぶ会の講演会を受講させていただきました。

別子銅山の歴史を学ぶ会は今回で大きな節目となる 50 回目を迎えました。その記念として、自彊舎益友会会長の猪瀬和男氏が講師を務め「鷲尾勘解治と新居浜」と題した講演を行いました。

猪瀬さんは茨城県のご出身で、昭和 36 年に住友化学へ入社され、海外でのダム建設にも従事される等ご活躍されました。そして、昭和 57 年に住友金属鉱山へ移られ、人事・労務関係に従事されるなどのご経歴もお持ちです。今年で 80 歳を迎えられました。

前会長の故井上省二氏より入会のお誘いがあり、機関誌「益友」の編集に 10 年間携わられ、その後会長にご就任されました。

ご講演では、鷲尾勘解治について「自彊」「作務」「円融」「共存・共栄」などをキーワードに分かりやすく丁寧にお話をいただきました。特に「銅山なき後の後策」については、現在の新

居浜の基礎が形作られる様子を当時の世相や人々の思いなどが具体的に織り交ぜられて、より深く学ぶことができました。

講演後、私たちの質問にも和やかな雰囲気ユーモアも交えながら詳細にお答えいただき、猪瀬さんの優しい誠実なお人柄を感じることができました。

そして、猪瀬さんの「新居浜は『私の郷土』これからも仲間とともに頑張っていきたい」とのお言葉にとっても心打たれました。私たちもふるさとを大切にしたいという思いを新たにして、郷土の素晴らしさや先人の思いを伝えていきます。また、さらに鷲尾勘解治についてもより深く学んでいきます。



講演会の様子



猪瀬さんにご質問させていただいている様子

(21) 「ライフスタディⅡ」課題研究『あかがねの道』愛媛県総合科学博物館の見学【6月9日】

3年次生の総合的な学習の時間「ライフスタディⅡ」において課題研究が行われました。

「総合」を選択している生徒は、愛媛県総合科学博物館に別子銅山関連の展示物の見学に行きました。屋外展示場では、四阪島で使用された転炉やカラミ電車を見学しました。転炉の仕組みを学習し、カラミ（銅を取った残りかす）による海岸の埋め立てなど、今では考えられない事など、スケールの大きさに驚いていました。

さらに、常設展示場では坑内での発破作業のジオラマなどを見学し、導火線の長さで発破のタイミングをずらしたり、厳しい環境での作業の様子を知ったりと、先人の苦労も感じることができました。



四阪島で使用された転炉を背景に記念写真



発破作業を再現したジオラマを見学している様子

(22) 平成27年度「別子銅山産業遺産創造塾」開講【6月14日】

第1回目となる「別子銅山産業遺産創造塾」が開講しました。

本事業は、昨年度まで愛媛県東予地方局で実施された「Jrマイスター事業」を、今年度から「別子銅山産業遺産創造塾」として新居浜市が主催して実施することとなったものです。

参加者は新居浜東高校1名、新居浜西高校1名、本校10名の市内高校生12名です。

開講式は新居浜ウイメンズプラザを会場に行われました。

始めに、新居浜市別子銅山文化遺産課の秦野親史課長さんよりごあいさつがあり、「座学で基

礎知識を身に付け、まちの形成に視点を持ち、人物に注目するという『三つの視点』で取り組み、自らが別子銅山産業遺産の保存・活用について考え、まちづくりに貢献してほしい」とのお話がありました。

続いて、本事業の企画・運営をご担当されるリージョナルデザイン株式会社の代表取締役である安孫子尚正さんよりオリエンテーションが行われ、プレゼンテーションの手法「何を伝えるかではなく、何を意識してもらうかが大切」やフィールドワークのあり方「産業遺産から、今どのように読み取るか」などについて具体的なご指導をいただきました。また、「役立つ過去をなつかしい未来へ創造する」というお言葉は、今後の取り組みの指標となる貴重な学びとなりました。

そして、アイスブレイクによりグループ編成が行われ、3人1組の4グループができました。

その後、第1回目の講座が「別子銅山の意義」と題して秦野課長さんを講師に行われました。新居浜市の概要からはじまり、ふるさと学習、登録有形文化財、別子銅山関連の観光の現状や日本三大銅山について触れ、住友史料館の副館長である末岡照啓氏の著作された「別子鉱山における産業遺産群の世界的意義」を中心にしながら、写真やデータを多用して分かりやすくお話しいただきました。

その後、講座の振り返りとしてワークショップが行われ、最も印象に残った内容と自分の意見についてグループで話し合い、代表者がまとめて発表を行いました。

秦野課長さんからは「ひとつひとつの事象を歴史的事実と重ねて関連付けすることが大切で、そのことによって理解が深まる」とのアドバイスをいただきました。



秦野課長による講座の様子



ワークショップの様子

昼食を挟み、午後からは第2回目の講座が「別子銅山を活かしたまちづくり」と題して別子銅山記念図書館館長の横井邦明館長さんを講師に行われました。

横井館長さんは、前別子銅山文化遺産課課長であり、前身の産業遺産活用室時代から別子銅山産業遺産に関わられています。

「別子銅山産業遺産の保全・管理」「情報発信」「ネットワークの構築・拡大」を視点として、「別子銅山総合整備計画の作成」に至る過程について、新居浜市の別子銅山の近代化産業遺産に関する取り組みの経緯を元に詳しくお話いただきました。その中で、私たち情報科学部時代からの活動も取り上げていただき、とても光栄でした。お話の最後で鷲尾勘解治氏（初代住友別子鉱業所社長）と白石誉二郎氏（初代新居浜市長）に触れられ、白石氏の「観衆者でなく、演出者の一員でなければならない」との言葉はたいへん印象深く心に刻まれました。

その後、2回目のワークショップが行われ、自分たちが目指す別子銅山産業遺産の保存・活用のあり方についてグループで話し合い、代表者がまとめて発表を行いました。

横井館長さんからは「ふるさと学習を継続していくことの大切さや高校生による情報発信の期待」についてアドバイスをいただきました。

その後、フィールドワーク講座として星越界限・山田社宅等の見学を行いました。

この講座では、別子銅山 Jr マイスターを取得しているユネスコ部部長の寺尾遥さん、副部長の谷下華さんが講師を務めさせていただきました。

星越駅舎、旧星越選鉱場、山田社宅、西洋社宅などについて現地案内し、元住友共電社長宅では鷲尾勘解治氏の紙芝居もご披露させていただきました。

今日一日、講座やワークショップ、フィールドワークなど多彩な内容で、さらに学びを深める

ことができました。また、他校生との交流も貴重な機会となりました。



横井館長による講座の様子



フィールドワークの様子

(23) 第2回図書館学習会「別子銅山を学ぼう!」『Let's go 広瀬 House!』【6月18日】

本校図書館にて、2回目となる学習会が開催され、31名もの生徒が参加しました。

今回のテーマは「広瀬邸」。新居浜唯一の国宝である「旧広瀬邸」の魅力を学びました。

講師は、2年次でユネスコ部副部長の永易舞さん、1年次の古川若奈さん、田中陸矢くんが務めました。

始めに、前回の復習として「別子銅山の BIG4」の人気投票の結果を発表しました。1位は今回のテーマの主人公「広瀬宰平」でした。

改めて、広瀬の生い立ちや業績について学んだ後、広瀬邸のお勧めポイントを写真パネルで紹介しました。開国により、外国から輸入されたガラスや避雷針、洋式トイレなどの紹介。さらには、広瀬が好きだったくすのきを材料としたお風呂、望煙楼（ぼうえんろう）からのすばらしい眺めなど。学習を終えた生徒からは、「広瀬邸に行って今日学んだものを見てみたい。望煙楼から新居浜を眺めてみたい」などの感想がありました。

第3回目となる図書館学習会は、図書館を飛び出して、今日学んだ「旧広瀬邸」へフィールドワークに行きます。



説明している様子



学習会の様子

(24) 平成27年度ユネスコスクール校内教職員研修【7月2日】

今年度のユネスコスクール校内教職員研修を本校会議室において開催しました。講師として、鳴門教育大学副学長の近森憲助先生に「ユネスコスクールって何?—ユネスコスクールの意義と取組—」と題してご講演をいただきました。

はじめに、「ユネスコスクール」、「持続発展可能な開発のための教育」、「ESD」について新聞記事や具体的な事例を交えて、一つ一つの言葉を噛み砕いて分かりやすくご教授くださいました。

「ESDは箱の枠組みのようなもので中身は無い。学びのあり方（知るため・行動するため・自己確立するため・共に生きるために学ぶこと）である。箱の中身はそれぞれの学校・生徒・地域の実態に合わせて、これまでの教育を ESD で捉えなおし、活動・評価をどのようにするか作っ

ていけばよい。『立派な大人・素敵な大人』（他人の為に時間とエネルギーを裂けることのできる人）を育てること。これらの『教育運動』が ESD のねらいである。」とのご指導をいただきました。

また、ユネスコスクールの活動を通して、明確な教育目標の下で学校が一つにまとまり、ユネスコスクールが「地球規模で考えて、地域で行動する場となる」など、さまざまなメリットがあることも知ることができました。

最後に、新居浜市の現状にも触れていただき、昨年度市内の小中学校のほとんどがユネスコスクールに認定されたこと。今年度は新居浜市教育委員会が代表となり ESD 推進事業を展開すること。新居浜東高校がユネスコスクールに認定されたことで、本校を含め、新居浜市の子供たちが、全員ではないにしても高校までユネスコスクールで学ぶ機会ができたこと。このような例は全国的に見ても少なく「新居浜は ESD のホットスポット」とのお言葉もいただきました。

今日のご講演を機に、私たちの教育活動を ESD の視点に立って見直し、実践を通して、『立派な大人・素敵な大人』を育てる『教育運動』を行っていきます。

またこの度、近森先生には本校（および新居浜東高校・新居浜工業高校）が推進する「ESD 環境教育コーディネータ」もお引き受けいただき、今後さらにご指導・ご鞭撻をいただくこととなりました。



ご講演される近森憲助先生



教職員研修会の様子

(25) 第 31 回 ESD 中学高校連携事業「別子銅山を学ぼう！」新居浜市立北中学校【7 月 3 日】



始めのあいさつの様子



クイズで盛り上がっている様子

北中学校体育館において、1 年生 77 名を対象に別子銅山登山事前学習を行いました。

落ち着いた雰囲気の中で学習を行うことができました。

私たちの問いかけに積極的に手が上がり、発表も大きな声でしっかりと行ってくれました。また、メモをしっかりと取る姿もとても意欲的で素晴らしかったです。

最後に、生徒代表からは「知らないことが多かったが良く分かった。登山が待ち遠しくなった。」という感想をいただきました。

北中学生は今回の学びが「ふるさと学習の」スタートになります。今日のことをいいきかけ

として、ふるさとへの学びをさらに深めていただきたいと思います。

北中学校では来週の 7 月 7 日に登山を予定されています。同日、私たちも角野中学校の皆さんと登山をさせていただきます。また銅山でお逢いできることを楽しみにしています。

(26) 旧広瀬邸と広瀬歴史記念館での現地研修【7 月 5 日】



建物の外観について説明いただいている様子



鉱山鉄道のジオラマの前にて説明いただいている様子

ユネスコ部員の研修と来週に開催予定の図書館学習会でのフィールドワークの準備とに合わせ現地での研修会を行いました。

今回特別に、広瀬歴史記念館の学芸員である赤壁佑さんにご案内をいただきました。

始め、広瀬歴史記念館において、広瀬幸平の生い立ちから様々な功績について、資料を見せていただきながら分かりやすく解説をいただきました。時には、クイズを交えて楽しくお話しいただきました。

その後、旧広瀬邸もご案内いただき、建物に隠されている広瀬の様々なこだわりについてお話しいたいただき、広瀬の人柄を肌で感じることができました。

開国後、外国から輸入された暖炉やトイレ、ガラスが当時のまま残されており、驚きの連続でした。母屋の上に建てられた避雷針は、輸入当時それが何か分からなくて、一度別子銅山の山中まで間違っって運ばれたというエピソードもお聞きできました。

広瀬邸には松方正義や西園寺公望など明治期の総理大臣経験者などが宿泊したこともあるので、ますます広瀬邸のすごさを知り、郷土の宝物として誇りを持つことができました。

2 時間 30 分かけて見学させていただきましたが、まだまだ秘密いっぱいの広瀬邸には時間が足りませんでした。ぜひまた訪れてみたいと思います。今日の学びをしっかりと吸収し、多くの方々に発信していきたいと思います。

(27) 『あかがねミュージアム』バリアフリー調査【7 月 5 日】



施設周辺の調査の様子



施設内トイレの調査の様子

私たちユネスコ部は 3 年前から NPO 法人四国バリアフリースターセンターと共同で、新居浜

市の観光施設や駅・公園など、公共施設のバリアフリー調査を行っています。

今回は、オープン前の『あかがねミュージアム』のバリアフリー調査を行いました。

調査結果は市のホームページに掲載され活用されます。

1年次生は今回のバリアフリー調査が初めて経験となりました。

自己紹介を行った後、さっそく調査に入りました。センターがご用意してくださった車いすに乗り、測定機材を手にミュージアムの中へ・・・オープン前の施設には入れるとあって興味津々、ワクワクドキドキでした。

多目的トイレの調査、シアターの車いす専用座席の広さの測定、施設内の机の高さや設置された機器の取り扱いについて調査していきました。

その後、屋外でのスロープの傾斜や距離の測定も行いました。最後に「JINRIKI」というけん引式車いす補助装置の試用も行い、階段の上り下りも体験させていただきました。

今日の活動を通して、車いすからの視点で調査することで、生徒たちからは「物を見る意識が変わった。」との感想がありました。

この体験を通して、生徒たちは一段と成長することができました。

理事長の白石誠一郎さんから「これを機会に様々な経験をこれらも行っていきましょう。」と温かいお言葉をいただきました。

今後も継続した取組を行い、より広いものの見方や考え方ができる人に成長できるようになりたいと思います。

(28) 第 32 回 ESD 中高連携事業「別子銅山を学ぼう！」

新居浜市立角野中学校 東平地区現地研修【7月8日】



東平の始まりとなる第三通洞の案内の様子



霧に包まれた貯鉱庫跡の案内の様子

新居浜市立角野中学校 3 年生 109 名がふるさと学習として東平地区の現地研修を行い、ユネスコ部でご案内をさせていただきました。

当初、旧別子地区の登山を予定していましたが、小雨がぱらつくあいにくの空模様で、急きょ東平地区へルート変更となりました。

ユネスコ部員にとって、急な場所の変更や初めての中学生の案内など戸惑いもあり、不安いっぱいの中でスタートしました。

しかし、中学生が私たちの説明をよく聞いてくれたり、質問やクイズなどに楽しく答えてくれたおかげで、無事にガイドを務めることができました。

中学生からは、本物を見て感動したことや、このことをこの後のふるさと学習に活かしたいとの感想をいただきました。

濃霧の中での研修となりましたが、雨は降ることはなく、銅山に助けていただいたなと感謝の気持ちでいっぱいです。

中学生の皆さんには、今度はぜひ晴れた日にも訪れて、今日のことを思い出しながら、新たな発見や驚きを感じて欲しいと思います。

中学生が熱心に聞いてくれたり、質問してくれる姿は、私たちにとっても学びの多い機会となりました。十分に説明できなかつたり対応が不十分だった点は、しっかりと反省し、今後さらに学習や研修に努めて行きたいと思います。

(29) 広げようボランティアの輪～ESD パスポートを全校生徒で活用しよう！～【7月8日】



ESD パスポートについて説明する様子



ESD パスポートを手にする全校生徒の様子

ESD パスポートを今年度から全校生徒で活用しようと、ユネスコ部員が全校生徒に呼びかけました。

放課後、全校生徒に体育館に集合してもらい、全校集会として開催させていただきました。

「広げようボランティアの輪」と題して、2 年次生でユネスコ部部長の寺尾遥さん、副部長の谷下華さん、同じく副部長の永易舞さん 3 名が、ユネスコ組織の説明や本校のユネスコスクール認定の経緯、これまでのユネスコスクールとしての活動状況、ESD とは何か、ESD パスポートの意義や活用の方法などについて、プレゼンテーション資料を作成して説明しました。

全校生徒は配布されたパスポートを手にも真剣に話を聞いてくれていました。

これから迎える夏休みはたくさんのボランティアの機会があります。大いに活用してもらい、年度末にはたくさんの生徒が 30 ボランを達成して、校長先生から表彰してもらうことを期待しています。

無理をしないで「自分でできることを始めて行きましょう！」「きみが世界を救う。ESD で、明るい未来を作りましょう！」。

ボランティアの新居浜南高校をますます盛り上げましょう！！

(30) 奉仕活動で全校生徒が 1 ボラン獲得！【7月9日】



奉仕活動の様子



刈った雑草を運ぶ様子

本日はグループマッチを開催しましたが、途中大雨の為中断してしまいました。

その後晴れ間が見えたため、その時間を利用して全校奉仕活動を行いました。

午前中の大雨に打って変って、午後は真夏の暑い日差しの中でしたが、本校南側にある山根大通りの道路沿いに生えた雑草を各クラスで分担して取り除きました。

道行く方から「ご苦労様」と声をかけていただくなど、地域の方にも喜んでいただきました。

生徒たちは、汗まみれ、泥まみれになりながらの作業でしたが、少しでも地域の環境整備に一役買えた満足感で、いい笑顔をしていました。

昨日 ESD パスポートの案内をしたところでした。早速「1 ボラン獲得！」とうれしい声も聞こえました。これをきっかけに、さらにボランティアの輪を広げて行きたいですね。みなさんお疲れ様でした。

(31)「別子銅山産業遺産創造塾」養成講座②【7月12日】



猪瀬和男会長の講話の様子



坪井利一郎さんの講話の様子



フィールドワークの様子



鷺尾勘解治顕彰公園で坪井さんの解説の様子

第2回目となる「別子銅山産業遺産創造塾」養成講座が開講されました。

今回は、新居浜の都市計画がテーマでした。

午前中は、星越地区の山田社宅内にある旧住友共同電力監査役の社宅を会場に、自彊舎益友会の猪瀬和男会長さんから「鷺尾勘解治と新居浜」と題して講話をいただきました。「別子銅山の近代化」「鷺尾勘解治のひとづくり」「鷺尾勘解治の後栄策」「鷺尾勘解治の新居浜離任と帰住」「鷺尾勘解治没後の自彊舎活動」の4つのテーマで丁寧に分かりやすくお話してくださいました。お話の中で、特に「鷺尾勘解治の後栄策によって今の新居浜があることを知ってほしい。5W1Hを念頭におきながら別子銅山の歴史とともに日本史や世界史を関連付けることが重要である。また、仲間とともに歩むことが大切であること。」など、人生の先輩としてのアドバイスをいただきました。

午後からは、隣接している旧住友共同電力社長宅に場所を移して、別子銅山記念図書館の専門員である坪井利一郎さんから「住友の都市計画」と題して講話をいただきました。鷺尾勘解治の行った地方後栄策の中で特に「昭和通り」「新居浜港」の詳細な解説があり、新居浜市初代の市長となる白石誉二郎との関係、新居浜市の海岸埋め立てに関する地図の読図方法についても解説していただきました。

そのことを踏まえて、フィールドワークとして、昭和通り、新居浜港、自彊舎跡などを実際に訪れ、坪井さんより詳しい解説をいただきました。そのことで、当時の人たちの思いを肌で感じ取ることができました。

今回は養成講座のまとめとして宿泊研修が予定されています。これまでの学びをより深めながら、自分自身の感性をさらに磨きたいと思います。

(32) 図書館学習会「別子銅山を学ぼう！」③フィールドワーク in 旧広瀬邸・広瀬歴史記念館

【7月15日】



ポイントでスタンプを押している様子



全員スタンプ GET しました！

第3回目となる図書館学習会「別子銅山を学ぼう！」は、学校図書館を飛び出して旧広瀬邸・広瀬歴史記念館へフィールドワークを行いました。しかし、ただのフィールドワークではありません。なんと、旧広瀬邸ではスタンプラリーを企画しました！去る7月5日に事前研修を行い、みんなに楽しく学んでもらおうと考え、オリジナルのスタンプシートに発泡スチロールのトレイを再利用したエコな特性スタンプも制作しました。

スタンプラリーは旧広瀬邸内に隠された7つのチェックポイントを探し出すものです。

台風が迫っている影響で気温が30度を超える蒸し暑い中でしたが、21名もの生徒が参加してくれました。

そして、さらに熱いバトルを繰り上げました！日本家屋の中に洋風を取り入れた建物内の雰囲気を楽しみながら、みんな早々にポイントがクリアできていました。

その後、広瀬歴史記念館も見学させていただき、先日学んだ内容を確認し、熱心に資料を見ながら、友達との会話を交えてさらに学習を深めていました。

1学期は今回でいったん終了となりますが、2学期はさらに楽しく学んでもらえるよう、ユネスコ部一同知恵を絞ってまいります。

(33) 文部科学省生涯学習政策局社会教育課長 谷合俊一氏 ユネスコ部視察【7月17日】



谷合俊一氏にアドバイスをいただいている様子



一同で記念写真

文部科学省生涯学習政策局の社会教育課長である谷合俊一氏が本校ユネスコ部を視察されました。

昨年12月に文部科学省で活動報告を行ったご縁で、今回の視察が実現しました。

台風11号の影響で大荒れの天候が懸念される中でしたが、無事にご来校時いただくことができました。

はじめに、ユネスコ部部長の寺尾遥さん、副部長の谷下華さん、同じく副部長の永易舞さんが、新居浜市や別子銅山の概要、ユネスコ部の活動の取り組みについて発表させていただきました。

谷合課長様は私たちの説明一つ一つを優しくうなずきながら熱心にお聞きくださいました。

発表の後、懇談のお時間をいただき、私たちにユネスコ部に入ったきっかけや、その活動をどのように将来に活かしたいかなどのご質問をいただきました。

また、私たちの今後の活動に際して「交流」をキーワードに小中学校をはじめ他の高校との連携の強化、昔のことを知っている方からの聞き取りの大切さ、別子銅山以外のものにも広く目を向けることや海外にも交流の輪を広げてみてはとのアドバイスをいただきました。

そのような中で、「地域の課題を見つけて、その解決こそが持続可能な地域を作っていくことにつながる。ESD はものすごく大切であり、今後もユネスコ部の活動を通してコミュニケーション能力を磨きながら ESD のさらなる実践を行ってほしい。」とのご期待のお言葉も下さり、私たちのこれからの活動に大きな目標となりました。

(34)「新居浜ユネスコ寄席」笑いで平和を！【7月18日】



新居浜ユネスコ協会員の皆さんと記念写真



寄席の様子



軍艦島の世界遺産登録記念パネル展示の様子



会場入り口での募金活動の様子

民間ユネスコ運動の日の1日前に新居浜ユネスコ協会主催による「新居浜ユネスコ寄席～つなげよう平和の心～」が新居浜市市民文化センター中ホールを会場に開催されました。

約300名余りの方が開場30分前から入口に駆けつけるほどの盛況ぶりでした。

県内外からプロやアマチュアの落語家6名が共演し、地元新居浜からは芸乃虎や志さんが出演され、会場を笑いの渦に巻き込みました。

新居浜ユネスコ協会青年部として活動しているユネスコ部は、2年前に軍艦島を世界遺産にする会理事長の坂本道德さんにご案内いただいた軍艦島（長崎県端島）が「明治日本の産業革命遺産」として世界遺産登録されたのを祝して、会場フロアにパネル展示をさせていただきました。

また、東日本大震災の被災者支援、世界寺子屋運動として募金活動も行い、多くの方々から温かいお気持ちをいただくことができました。

そして、寄席がお開きとなり、会場を後にする皆さんが笑顔いっぱいの表情だったのがとても印象的でした。笑顔で平和の心がつながった1日となりました。これからも私たちはさらにその輪を広げて行きたいと思います。

(35) あかがねミュージアムオープニングイベント「スペシャルバラエティーショー」に出演！

【7月17日】



会場の様子



発表している様子

ユネスコ部は、昨日オープンしたあかがねミュージアムのオープニングイベント「スペシャルバラエティーショー」に出演させていただきました。

別子銅山のお薦めスポットをご紹介させていただきました。

部員一人一人が各自のお薦めのスポットについてパネルを用いながら、その場所のとおきの「すご話（凄いとっておきの話）」をご披露させていただきました。

この様な場所で、多くの方々を目の前にしての発表は全員が初めてで、緊張の連続でした。

しかし、私たちのクイズに積極的に答えてくださったり、温かいお声をかけていただいたりと、少しずつ緊張もほぐれて、精いっぱい力を出し切って頑張ることができました。

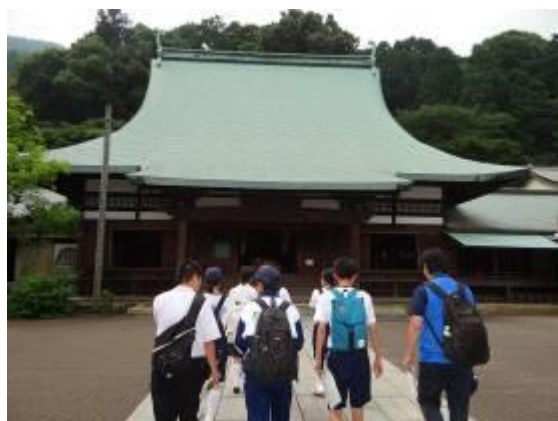
最後には大きな温かい拍手をいただき、充実感いっぱいやり終えることができました。

別子銅山という堅いイメージを高校生の視点から柔らかに楽しく、その魅力を多くの方に知っていただく絶好の機会となりました。

司会者の方々からも、「新居浜に住んでいながら、知らなかった魅力を知ることができた。」と、お褒めの言葉をいただくことができました。

今回の発表は、私たちにとって新たな一歩を刻むことができたと思います。

(36) 別子銅山産業遺産創造塾事前研修【7月20日】



会場の様子



発表している様子

ユネスコ部1年次生7名は、8月1日に開催予定の別子銅山産業遺産創造塾で案内役を務めさせていただくため、現地での事前研修会を行いました。

午前中は仏國山瑞応寺において、ご許可をいただき、住友墓所や別子大火災・大水害の慰霊碑、太平洋戦争中の中国人俘虜の慰霊碑などを訪れました。

瑞応寺は初めて訪れた部員も多く、新居浜に厳かな雰囲気のある場所があることを新鮮に感じました。また、これまで資料を中心とした学びが、墓碑や慰霊碑を実際に目の当たりにすることで、新たな発見や驚き、先人への想いを深め、歴史を学ぶことの大切さを知ることができました。

その後、昼食時にマイントピア別子へ立ち寄ったところ、別子銅山の歴史を学ぶ会会長の曾我幸弘さんにお逢いできました。曾我さんは会員仲間と瑞応寺および住友墓所について詳細な調査を行っており、タイミングよく、先ほど学んできたことを質問させていただく機会に恵まれました。曾我さんは、勉強不足の私たちに丁寧にお答えいただき、資料まで提供してくださいました。

午後からは東平地区での研修会を予定していましたが、出発直前、道路への落石による通行止めのニュースが飛び込んできました。そこで東平行きは断念し、周辺の近代化産業遺産を巡り、普段通り過ぎてしまう何気ない風景の中にも、大切な宝物が潜んでいることを学ぶことができました。

グッドタイミングな曾我さんとの出逢いや出発直前の落石での通行止めニュースなど、私たちの活動はまさに銅山人（やまびと）に見守られている活動だと感謝の心でいっぱいになりました。

本日、曾我さんからいただいた事をヒントに、これまでゼロであった知識をしっかりとしたものにして、銅山人のみなさんにもご恩返しできるよう、本番に備えたいと思います。

(37) JR東海相談役・産業観光推進会議委員 須田寛氏講演会【7月21日】



須田寛氏のご講演の様子



一同で記念写真

地域経済の持続的発展と継承セミナー「近代化産業遺産のまち新居浜」の魅力を知る！－新居浜発！地域資源の魅力発信－（主催：新居浜商工会議所 観光まちおこし委員会）が新居浜商工会議所において開催されました。

JR 東海相談役・産業観光推進会議委員の須田寛氏が「地域資源を軸とした交流人口の拡大と新居浜」をテーマにご講演されました。

須田氏が新居浜市を訪れたのは昭和34年で、その頃は「東京より賑わっていた」とのこと。

しかし、「別子銅山の閉山後はシャッターの閉まった商店が並び閑散としてしまった。

ところが、現在は別子銅山の近代化産業遺産を生かした産業観光まちづくりが市民の力によって推進され、あらゆる文献にも登場するなど全国で評価され、日本のモデルにもなっている。」との評価もいただきました。

『観光』とは、「各地のすぐれたもの（光）を心をこめて（観）見ること、また心をこめて学ぶこと。同時に、心をこめて観（示す）、誇りを持って観（示す）ことであり、観光をただの遊びごととして誤解されている。」とのお話にとっても感銘を受けました。

このことは、私たちが先の観光甲子園や昨年の東京での発表も須田先生の前著書「新産業観光」でいただき、活動の最も基礎にさせていただいているお言葉です。

そして、『観光』は「文化事業であり、経済交流であり、人口減少に向かう日本を救い、地域創生を図る唯一の切り札である。」とも述べられました。

2000年に新居浜市で開催された近代化産業全国フォーラムで、情報科学部の生徒が事例報告をさせていただいた際に、「時間を唯一守ってすばらしい発表だった。」とご記憶なされていたことも光栄の極みでした。

今日の須田先生のお話は、私たちが取り組むべき課題に大きな示唆をいただく貴重な機会となりました。今後は、広域のネットワークづくりや、ホームページの開設などさらなる連携や情報発信に力を注ぎ、先進地としての期待にお応えし、その一助になれるようユネスコ部も頑張っていきます。

(38) 新居浜市議会議員ユネスコ部視察【7月21日】



歓談の様子



一同で記念写真

(篠原茂氏、高塚廣義氏、神野恭多氏)

新居浜市議会議員の篠原茂氏、高塚廣義氏、神野恭多氏がユネスコ部を視察されました。

近く岐阜県の県立可児高等学校をご訪問されるにあたり、ユネスコ部の活動についてご理解いただくためのご来校となりました。

はじめに、ユネスコ部の活動報告をさせていただきました。プレゼンテーションの様子をメモされたり写真に収めていただくなど熱心にご覧いただきました。

続いて、ご歓談の機会をいただきました。市議会議員の方と直接お話をさせていただく機会は初めてで、緊張した場面もありましたが、ユネスコ部への入部のきっかけや今後の活動についてなど、ご質問をいただく中で、楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

また、私たちの取り組んでいる課題は、行政も取り組んでいることと共通しており、活動が参考になったと高い評価をいただくことができました。

今日のご報告や懇談の内容を可児高校のご訪問に参考にしていただき、新居浜市や私たちと可児高校との新しいつながりが生まれるきっかけになればと願います。

(39) 平成 27 年度愛媛県新規採用教員 新居浜地区地域研修「あかがねの道スタディーツアー」

【7月22日】



先生方に銅鉱石などをお渡ししている様子



東平地区で貯鉱庫跡で案内の様子

今年度採用された高校教員を対象に新居浜地区での地域研修会を開催し、ユネスコ部員が案内役を務めさせていただきました。今年で4年目の開催となります。

参加者は、四国中央市からは土居高校、市内からは東高校、工業高校、商業高校、本校と5つの学校から新規採用教員・指導教員合わせて12名でした。

始めに訪れたのは東平地区でした。

ツアーブックや別子銅山の銅鉱石のサンプルなどをお渡しし、東平の歴史や概要について紹介させていただきました。

引き続き、東平歴史資料館をご案内させていただきました。館内では、東平紹介のビデオをご覧いただいたり、地形や劇場などのジオラマを解説させていただきました。

その後、小マンプ内のかご電車や鉱石運搬用のバケットなどをご覧いただきました。

そして、メインの索道基地跡や貯鉱庫跡をご案内しましたが、濃い霧が立ちこめたり、少し雨にも降られるなどあいにくの天候となりました。しかし、先生方は私たちの説明に熱心に耳を傾けてくださり、クイズなども積極的にお答えいただくなど、とても楽しくスムーズにガイドを務めることができました。



別子銅山記念館で田尾邦雄館長による案内の様子



参加者一同で記念写真

続いて訪れたのは、今回のために特別公開していただいた旧端出場水力発電所でした。ここでは、新居浜市別子銅山文化遺産課の秦野親史課長さんにご案内をいただきました。明治期の雰囲気漂う施設内で、先生方は秦野課長さんの丁寧な解説をお聞きしながら、一つ一つの機器に興味深くご覧になっていました。ただ、先日の台風で屋根のとたん外部はがれてしまい、雨が吹き込んでいたのには驚きとともに非常に残念でした。市では早急に対策をされるとのことでした。

最後に訪れたのは、別子銅山記念館でした。田尾邦雄館長さんにご案内いただきました。250年前の本物の棹銅を拝見させていただいたときは、思わず感動の声を上げてしまいました。別子銅山の歴史やその意義について、史料を見ながら分かりやすく解説いただき、先生方も理解を深められていました。

今回の研修で、他校の先生方同士や先生とユネスコ部員とのコミュニケーションも深まるなど、大変充実した内容となりました。この研修会も年々広がりが出てきました。今後はさらにその輪が広げられるよう、また私たちユネスコ部もさらに学習を深め、さらにレベルアップしたご案内ができるよう精進して行きます。

(40)「夏休みアドベンチャーサイクリング別子銅山のヒミツを解き明かせ！！」事前打ち合わせ会 【7月24日】



打ち合わせの様子



サイクリングマップや実施要領

7月24日、8月9日に開催予定の「別子銅山産業遺産」をサイクリングで巡る”遊学ラリー”企画（主催：愛媛県東予地方局）について、本校で事前の打ち合わせ会を行いました。

愛媛県東予地方局総務企画部地域政策課の山橋敏臣係長さん、戸田優美主事さんにご来校いただきました。

全体の行程や「クイズラリー」についての実施要領の確認などを行いました。

また、サイクリング終了後は東平地区へのオプションバスツアーもあり、その実施方法などについても打ち合わせを行いました。

定員 30 名いっぱいのお申し込みがあったとのこと。

サイクリングで巡るコースは、普段通学で利用している自転車道（別子鉱山鉄道跡）が中心となります。

今月始めにいただいた真新しいヘルメットを着け通学用自転車で巡ります。

お客様と一緒に別子銅山の新たな魅力が発見できそうで、今からわくわくしています。夏の思い出のページに別子銅山での楽しいサイクリングが加えていただけるよう、ユネスコ部一同頑張ります！楽しみにしててください。

(41)「平和の鐘を鳴らそう 活動パネル展」開催【7月29日～8月4日】



パネル展示準備の様子



パネル展示の様子

イオンモール新居浜店の2階サウスモールにて、新居浜ユネスコ協会主催による「平和の鐘を鳴らそう 活動パネル展」を開催しています。

昨年8月にユネスコ部は石見銀山へ現地研修に行かせていただきました。『石見の歴史をモニタリング～世界遺産登録の謎を探れ～』を研修のテーマとし、その学んだことを高校生の視点で35枚のパネルにまとめました。

産業遺産としてはアジアで初めて世界遺産に登録された石見銀山に興味を持っていただき、訪れていただくきっかけになることも期待しています。

また、8月1日午前11時から1階サウスコートにて「平和の鐘を鳴らそう」本イベントが開催されます。

(42)「東予の誇れる産業遺産（たから）」スタディーツアー【7月30日】



当時の様子を語る松岡達也氏



聴き取り調査の様子



当時の様子を語る松岡達也氏



聴き取り調査の様子

新居浜市内の小・中学校教員および市教育委員会関係者のべ 55 名が参加し、新居浜市社会科同好会および愛媛県東予地方局により主催して開催されました。

午前中は四阪島クルージング、午後は東平、旧端出場水力発電所、鷺尾勘解治顕彰公園を見学しました。

暑さは厳しかったものの、晴天に恵まれ、洋上は波も穏やかで絶好のツアー日和となりました。

ユネスコ部として、小・中学校の先生方をご案内させていただくのは初めてのこととなりました。私たちの勉強不足や準備不足の点がありましたが、温かく見守っていただいたり優しく質問してくださるなど、私たちにとっても学びの多いツアーとなりました。

さらに、小・中学校時代にお世話になった恩師にも再会でき、自分たちの成長した姿をお見せし、喜んでいただくことができました。

これを機に、小・中学校の先生方とのつながりをさらに広げて行きたいと思います。

住友金属鉱山株式会社別子事業所、新居浜市別子銅山文化遺産課、せとうち観光社のご協力もいただき、無事にツアーを終了することができました。

(43) 第 5 回『平和の鐘を鳴らそう』【8 月 1 日】



新居浜ユネスコ協会会長 青野 正 氏



新居浜市長 石川勝行 氏

響け、ピース『平和の鐘を鳴らそう』が新居浜ユネスコ協会主催によりイオンモール新居浜 1 階サウスコートを会場に開催されました。

今年で 5 回目を迎え、今回からは 2 部構成と開催内容もさらに充実してきました。

新居浜市立西中学校合唱部によるユネスコの歌で開会、青野正会長のごあいさつに引き続き、石川勝行新居浜市長らのごあいさつされました。

子どもたちによる平和宣言の後、第 1 部では高津っ子バトンクラブによりパフォーマンスや新居浜市立西中学校合唱部によるミニコンサートが行われ、ショッピングに訪れた多くの方たちが、足を止めてご覧くださいました。そして、それぞれの催しに大きな拍手を贈ってくださっていました。

来場者は平和への祈りと願いを込めて鐘を鳴らし、「私の平和宣言」を記し、平和への誓いを新たにしました。



新居浜市立西中学校合唱部の合唱の様子



高津っ子バトンクラブによるパフォーマンスの様子



平和の鐘を鳴らす様子



メッセージボードに平和への思いを記入している様子

(44) 平成 27 年度「別子銅山産業遺産創造塾」養成講座③【8 月 1 日～2 日】

一泊二日の日程で養成講座が開催されました。

【1 日目】フィールドワーク講座からのスタートになりました。

別子銅山記念館およびその周辺について、別子銅山記念館の田尾邦雄館長さんにご案内していただきました。館外から出たの田尾館長さんにお話をお聞きするのは初めての経験で、貴重な機会ともなり、新しい発見が数多くありました。

午後からも引き続きフィールドワークが行われ、山根製錬所跡の煙突があるえんとつ山へ登り、えんとつ山倶楽部の皆さんに周辺の環境整備への思いなどをご紹介いただきました。

その後、佛國山瑞應寺へと移動しました。



瑞應寺を案内する様子



別子大水害の慰霊碑を説明する様子

ここからは事前に学習したユネスコ部の1年次生が案内役を務めました。準備がしっかりできており、素晴らしい案内ができていました。また幸いに、「大転輪蔵」（昭和45年に愛媛県指定有形文化財に指定）もお寺のご厚意で拝ませていただく貴重な体験もできました。

気温35度を超える酷暑の中でしたが、熱中症も無く無事にフィールドワークを終えることができました。

その後、宿泊・研修施設となる「別子ハイツ自然館」で休憩しました。そして、新居浜市職員の方から「地方創生」について新居浜市の取組についてご説明があり、高校生の視点からの思いやご提案をさせていただきました。

夕食後、リージョナルデザインの安孫子尚正さんを講師に「歴史風景街道づくりのまとめ」のワークショップが実施され、各グループでプレゼン発表に向けた準備を行いました。



「大転輪蔵」を回す様子



新居浜東・西・南の三校混成チームの様子

【2日目】午前中は旧端出場水力発電所およびマイントピア別子端出場ゾーンでのフィールドワーク講座が行われました。

旧端出場水力発電所では、主催者である別子銅山文化遺産課の秦野親史課長さんよりご案内をいただきました。ツアーで訪れる機会の多くなった施設ですが、学習のためにと普段見られない貴重な場所などもじっくりと見学することができました。初めて見た床下の導水管は、技術力の素晴らしさに圧巻でした。

続いてマイントピア別子端出場ゾーンでは、観光ボランティアガイドの谷口淑子さんが講師をお務めになりました。

ここもツアーでご案内する機会の多い施設ですが、勉強熱心で私たちがいつも大変お世話になっている谷口さんからのご指導とあって、新しい学びをいただいたり、自分たちの不備な点も気づくことができるなど、とても参考になりました。

その中でも、銅鉱石を貯鉱庫から運び上げていたベルトコンベアー設置跡のトンネルの見学には、ボランティアガイドの方たちが、事前にはしごをかけたり下草を刈るなど、私たちの見学に際して様々な配慮をしてくださっており、感謝の思いで学ばせていただきました。



旧端出場水力発電所の案内する秦野課長



谷口淑子さんにご指導いただいている様子

午後は「別子ハイツ」に戻り、昨日のプレゼン発表資料の作成を行いました。

今回の養成講座は、別子銅山への学びを広げられるとともに、塾生お互いの親睦を深めあう貴重な機会となりました。

特に、学校の垣根を乗り越えた交友関係が築けたことは宝物となりました。

今回で最後の養成講座となり、8月22日には適性審査が行われます。合格者には認定証が授与されることになります。お世話になった多くの方々のご恩にも報えるよう、全員合格目指して頑張ります！

(44)『銅山人の詩～戦争体験者からの聴き取り調査～』【8月4日】



当時の様子を語る松岡達也氏



聴き取り調査の様子

戦後70年を迎え大きな節目を迎えた中、ユネスコ部は平和学習のために戦争体験者からの聴き取り調査を行いました。

お話をお伺いさせていただいたのは、松岡達也さん88歳です。

酷暑の中を新居浜南高校・会議室へご来校いただきました。

松岡さんは、昭和2年今治・大三島のご出身で、国民学校卒業後、昭和17年に広島県尾道にあった糸崎鉄道学校・機関科へ進学され、機関車技術などについて学ばれました。そして、17歳の時に予科練航空隊に志願し、昭和19年9月に海軍甲種飛行科練習生として入隊されました。

毎日厳しい特訓に明け暮れ、先輩からのひどいいじめを受け、布団の袖を濡らすこともあったそうです。しかし、そのような仕打ちにも耐え抜かれました。

また、特攻隊の話にも触れ、あと1年戦争が続いていたら、今回の出逢いはなかったとのことには恐怖を感じました。

昭和20年の松山空襲で、目の前に弾が落ちた経験もあったとのこと。その後、昭和20年8月15日に玉音放送を聞いて終戦を知り、時代の大きな変化に翻弄されたそうです。

松岡さんの「私にとっては今が青春時代。昨日を反省し、明日を夢見て、今を懸命に生きる。」とのお言葉には胸の詰まる思いを感じました。

終戦後、松岡さんは住友別子鉱山鉄道にご勤務され、別子1号機関車をはじめ、多くの機関車を運転されたご経験をお持ちの方でもあります。

今後、引き続きお話をお伺いさせていただきます。私たちが次代の語り部になれるよう、これからも学習を深めていきます。

(46) 平成27年度ESD研修会（講演会）への参加【8月5日】

今年度のESD研修会（主催：新居浜市教育委員会）が新居浜市市民文化センター大ホールを会場に開催されました。

午前中は小学校教員対象、午後は中学校教員対象で実施され、私たちユネスコ部は新居浜市教育委員会のご厚意で午後の部に参加させていただきました。

今回の研修会は講演会形式で、学校全体としてESDの意義や先進校の実践を共有することを目的に行われました。

始めに、鳴門教育大学副学長の近森憲助先生が「持続可能な開発のための教育（ESD）とは？—私の考え方—」と題して基調講演が行われました。その中で特に印象深かったのは、「ESDは

大きな箱の枠組みであり、知る・する（考える、結びつける、語り合う）・深める（一人の人間として自己を）：個別・共に生きる（他社との協働）：多用）の4つの側面から眺め、底面には「立派な大人」としての目標がある。」とのお話でした。

ESD という言葉は少しずつ聞かれるようになってきたと思いますが、今日のお話をお聞きして、どのように理解して受け止め実践していくか明確にすることができました。

講演後、徳島県阿南市立羽ノ浦中学校及び松山市立新玉小学校の実践事例の紹介もあり、多くのヒントをいただくことができました。

そして、自分たちの取組を振り返り、次の実践につなげるための貴重な機会となりました。

研修会終了後、近森先生とお逢いするチャンスがあり、ユネスコ部の部員たちに激励のお言葉をいただきました。



講演をされる近森憲助先生



フロアで ESD 関連資料の展示の様子

(47) 夏休みアドベンチャーサイクリング「別子銅山のヒミツを解き明かせ！」【8月9日】



あかがねミュージアムを出発する様子



旧星越駅舎前での案内の様子

「別子銅山産業遺産」を巡るサイクリング”遊学ラリー”が愛媛県東予地方局主催、NPO 法人シクロツーリズムしまなみ企画・運営で開催されました。

新居浜の街中に静かに眠る別子銅山の近代化産業遺産（お宝）の「本物の迫力」「本物の魅力」にサイクリングで迫る遊学ラリーに、市内外より9歳から80歳と幅広い年齢層で30名余りの方がチャレンジしました。

参加者はあかがねミュージアムに集合し、4つのグループを編成、作戦会議で巡回ルートを決めた後、グループごとに出発しました。グループには、新居浜南高校ユネスコ部や新居浜東高校国際地域研究部の生徒も加わり、途中で別子銅山の近代化産業遺産などを紹介し、参加者は街の魅力を感じながらサイクリングを楽しみました。また、チェックポイントではクイズも出題され、巡回した産業遺産等をバックにした写真もポイント加算され、それらの得点も競い合い、賞品もありました。

さらに、ラリー後は「天空のまち東平へ」としてオプションバスツアーも開催され、ユネスコ部が東平地区のガイド役を務め、参加者らは一日たつぷりと別子銅山の魅力を満喫できました。

(48) 別子銅山産業遺産創造塾 参加者全員『修了認定』【8月22日】



修了認定証の授与式の様子



修了認定記念写真

新居浜市が主催して6月から8月まで宿泊を伴う計3回の研修が終了し、新居浜ウイメンズプラザにて適性審査が行われました。

その結果、参加者全員が修了を認定されました。

適性審査は、筆記試験とプレゼンテーション能力によって審査されました。

筆記試験は、これまでの養成講座の学びを問う問題が出題されました。

プレゼンテーションは、最後の研修で行った「歴史風景街道づくり」の資料をグループごとに作成したものを発表した後、審査員の質疑に一人一人が答えるという内容でした。

審査では、筆記試験、プレゼンテーションとも全員が高得点をマークし、見事に終了の認定証と銅板の認定プレート（井上文子氏作）を手にすることができました。そして、いよいよここからが真のスタートとなって行きます。

(49) 日本観光振興協会総合研究所長 丁野 朗 氏 講演会【8月24日】



講演の様子



丁野氏と記念写真

(丁野氏の右隣は愛媛大学教授の森賀盾雄氏)

第3回地域経済の持続的発展と継承セミナー「近代化産業遺産のまち新居浜」の魅力を知る！
—新居浜発！地域資源の魅力発信—（主催：新居浜商工会議所 観光まちおこし委員会）が新居浜商工会議所において開催されました。

日本観光振興協会総合研究所長、東洋大学大学院・多摩大学大学院客員教授の丁野朗氏が「歴史遺産を活かした観光まちづくり～地域資源を組み合わせた魅力的なストーリーづくり～」をテーマにご講演されました。

「産業近代化は『国の光（観光）』、『近代』への眼差しの変化』、『新居浜の近代化遺産とその特質』、『新居浜の近代化をどう活かすか』などについて、各地の具体的な事例や数値を示されながら、参加した高校生にも時折質問を投げかけられるなど、丁寧に分かりやすくお話いただきました。

新居浜は2000年に全国に先駆けて「近代化産業遺産全国フォーラム」が開催された後、最近

10 年余り新居浜の産業観光が低迷していることについて述べられ、新居浜は全国的に引けをとらない数多くの近代化産業遺産があるにもかかわらずアピール不足であるなど、多くの課題があることや、今後のあり方についてもご示唆いただくご講演でした。

また、『歴史的投資（ヒストリカル・インベストメント）』という言葉（通商産業省次官の故左橋滋氏の言葉）を紹介され、『産業遺産の活用』とは、まさに地域の『歴史的投資』を活かし、次の時代の新たな産業や雇用を生み出す行為であり、新居浜の魅力づくりに力を合わせて頑張っ

てほしい。」と期待の言葉でご講演を締めくくられました。

この度、丁野様とは、情報科学部時代に先のフォーラムでご縁をいただいて以来の再会となりました。15 年の時を超えて、改めて親交を温めさせていただく貴重な機会ともなりました。

今回のご講演でいただいた課題を高校生の視点や立場で微力ではありますが、少しでも解決に結び付けられるよう行動して行きます。

(50) 立教大学 阿部治氏・環境省四国環境パートナーシップオフィス（四国 EPO）溝渕雅子氏 ユネスコ部視察【8 月 27 日】



活動報告の様子



記念写真（写真左より、関市民部長、阿部氏、溝渕氏）

立教大学の阿部氏と四国 EPO の溝渕氏が本校を訪れユネスコ部を視察されました。

新居浜市市民部長の関福生氏のご案内で訪れたお二人は、始めにユネスコ部部長の寺尾遙さん、副部長の谷下華さん、同じく副部長の永易舞さんによるユネスコ部の活動報告のプレゼンテーションをご覧になられました。また、1 年次生からも「別子銅山産業遺産塾」で作成した歴史風景街道の成果物なども紹介させていただきました。

その後、和やかな雰囲気の中、取り組みのきっかけや取組む事での自身の心の変化や成長、今後のことなど多岐に渡って懇談させていただきました。

阿部氏からは ESD の原点についてや過去の事柄であるが現代にもつながっていることを認識する大切さ、グローバルな視点とローカルな視点を持ちながら双方をつないでいくことで広がりを持った活動ができるなど、今後の活動においてさまざまな示唆を与えていただくことができました。

溝渕氏からは、ユネスコ部の活動を高く評価していただき、四国 EPO から広く情報発信していただけることなど、光栄なお話をいただくことができました。

なお、阿部氏は政府 ESD 円卓会議委員、政府 ESD 支援センター企画運営委員会準備委員会委員長、NPO 法人持続可能な開発のための教育の 10 年推進会議代表理事、公益法人日本環境教育フォーラム専務理事、前日本環境教育学会会長などを務めていらっしゃいます。

(51) 東平・第三地区および端出場地区の現地取材活動【8 月 29 日】

ユネスコ部 1 年次生は今後予定されているイベントに備えて、マイントピア別子東平ゾーンの第三地区を中心に現地取材を行いました。

第三地区は明治 35 年（1902）に第三通洞が完成したことにより、第三通洞の第三から命名された場所です。この地を代表する第三通洞口や旧第三変電所、火薬庫跡などを見学しました。

また、東平地区の環境整備を長年続けられている住友林業 OB の小笠原さんにお逢いし、火薬

庫で爆発事故が発生した際にその爆風を逃がした「風回し」と呼ばれる排気口などもお教えいただき、訪れることができました。

マイントピア別子端出場ゾーンでは、116 年前の別子大水害の犠牲者の子孫にあたる志尾邦夫さんが先祖のご供養に来市されており、1 年次生は初めての出逢いの機会となりました。

今日の現地研修を通して、小笠原さんや志尾さん方との出逢いや近代化産業遺産からその歴史的意義を学び、一方で華やかな歴史の中にも多くの困難や悲劇があることも知ることができました。現地での取材を通して、先人の力強さを感じることもできる貴重な機会となりました。今日の学びを学校で自分たちの想いとともにまとめ、多くの方に語り継いでいきます。



東平地区での活動の様子



マイントピア別子での活動の様子

(52) 第 4 回図書館学習会「別子銅山を学ぼう!」『伊庭の時代へタイムスリップ!!』【9 月 18 日】

本校図書館にて、4 回目となる学習会が開催され、30 名近くの生徒が参加しました。

今回のテーマは住友 2 代目の総理事を務めた「伊庭貞剛」です。

今回の講師は、2 年次でユネスコ部副部長の谷下華さん、1 年次の加藤文音さん、山内優花さんが務めました。

伊庭の生い立ちをはじめ、住友入社への経緯、植林事業や四阪島への製錬所移転などについて紹介をしました。そして、伊庭の奥さんの名前についてクイズを出し、学習会を締めくくりました。



学習会の様子



クイズの答えを回収している様子

(53) 旅行ライター 岡哲文氏 東平・端出場地区視察ご案内【1 日目】【9 月 21 日】

9 月 21 日～22 日の二日間、日本旅行作家協会会員で旅行ライターの岡哲文さん（東京在住）が新居浜を訪れ、ユネスコ部員が別子銅山をご案内させていただきました。

岡さんとは、昨年 12 月に開催された「別子銅山展 in 東京」にてお逢いし、新居浜にお越しの際は別子銅山をご案内させていただくお約束をしていました。

そして、今回その約束が実現する運びとなったのです。

1日目は、東平・端出場地区をご案内させていただきました。

東平地区では、始めに東平歴史資料館を見学し、東平の概要について知っていただきました。

その後、東平時代の幕開けとなる第三地区へ向かい、第三通洞・旧第三変電所・旧火薬庫の見学、東平地区へ戻り、インクライン跡・索道基地跡・娯楽場跡・生協跡などをじっくりと見学しました。

端出場地区では、観光坑道・第四通洞・泉寿亭・貯鉱庫跡・下部鉄道跡なども見学しました。岡さんは近代化産業遺産を写真に収めたり、私たちの説明を熱心にお聞きいただきました。

また、岡さんが全国各地を訪れた際のエピソードを別子銅山と比較して教えてくださるなど、私たちにとっても貴重な学びの機会となりました。



東平地区での案内の様子



端出場地区での案内の様子

(54) 旅行ライター 岡哲文氏 旧別子地区視察ご案内【2日目】【9月22日】

2日目は、旧別子地区をご案内させていただきました。

ルートは、別子山地区日浦登山口から銅山越えまでの往復でした。

小足谷集落では、レンガ造りの醸造所煙突や接待館の壁、さらには小学校跡や劇場跡の壮大な石垣をご覧いただきました。

その後、別子銅山のオアシスであるダイヤモンド水広場で休憩しました。ちょうどここでは、トイレの設置工事が行われていました。年内には完成予定で、今後はさらに快適な登山が楽しめるようになります。

そして、第一通洞、東延斜坑跡、牛車道からは、先人の技術力の高さや力強さを感じていただけたと思います。さらに、大露頭を見学し、一気に銅山越えに登りました。残念なことに少し雲がかかっていましたが、何とか市街地を展望することができました。そして、安全に下山もでき、無事に登山を終えることができました。

両日ともお天気に恵まれ、充実したご案内ができたと思います。岡様からは、ユネスコ部のチームワークや仲の良さにうらやましいとの感想もいただきました。今回の旅で感じていただけた別子銅山の魅力を全国に発信していただきたいと思います。



別子銅山最初の坑口「歓喜坑」での案内の様子



ダイヤモンド水の前での案内の様子

(55) そうびらき観月会【9月26日】



小学校グラウンドでの発表の様子



特製の芋炊きをいただいている様子

惣開公民館主催による観月会が開催されました。

ユネスコ部は「そうびらき未来への鉱脈」と題して、別子銅山が始まった山中から星越・惣開地区に至る歴史について発表させていただきました。

今回は、2年次生が修学旅行を控え、早めの中間考査発表となり、1年次生のみでの発表となりました。発表の舞台はなんと惣開小学校のグラウンドでした。

屋外での発表はユネスコ部初です。グラウンドの防球ネットに大きなスクリーンを設置していただき、日没を待って19:00過ぎから30分ほど発表しました。

あいにくの曇り空の中でしたが、雲の間から時折お月様が顔をのぞかせてくれました。

集まった地区住民の方たちはブルーシートいっぱいに座られ、用意したイスは足りず立ち見の方が出るなど、大変な盛況振りでした。

クイズを出題すると、小学生たちが元気よく答えてくれるなど、楽しく和やかな雰囲気の中で発表させていただきました。

観客の中には、私たちの発表の様子をビデオや写真を取られる熱心な方もおられ、興味深くご覧いただいている様子でした。

発表後は、惣開連合自治会によるビデオも放映され、惣開今昔の珍しい映像が放映され、こちらも熱心に見入っておられました。

フィナーレは地区住民による踊りや大型の打ち上げ花火などもあり、そうびらきの機運が大きく高まった観月会となりました。発表会に先駆けていただいた芋たきも最高の味で、お代わりさせていただきました。私たちにとってもとても楽しく充実した時間となりました。

(56) 総合的な学習の時間「ライフスタディⅡ」 東平地区フィールドワークその②【9月29日】



標高750mから見た展望に感動



貯鉱庫のしくみについて調査している様子

3年次生の総合的な学習の時間「ライフスタディⅡ」において課題研究が行われました。総合分野を選択している生徒は2回目となる東平地区へのフィールドワークを実施しました。

「東洋のマチュピチュ」として有名な貯鉱庫跡、索道場跡、選鉱場跡を中心に見学をしました。石やレンガで作られた重厚な姿に驚きの声を上げていました。先人たちの力強さや技術力の高さを直接肌で感じることができました。今日は、午後から気温が高くなり暑さが戻ってきたようでしたが、東平では秋の爽やかな風が吹いていました。道中、一般車両やマイントピア別子端出場からの観光バス 3 台ともすれ違うなど、平日にもかかわらず多くの方が観光に訪れていました。

(57) 第 33 回中国人殉難者慰霊祭【10 月 1 日】



慰霊祭の様子



慰霊碑

中国の国慶節となる日、日中友好協会関係者、住友金属鉱山株式会社、新居浜市副市長、市会議員、一般市民などが参列する中、瑞応寺に安置されている中国人殉難者慰霊碑前において、今年で 33 回目となる慰霊祭が執り行われました。

太平洋戦争末期、別子銅山へ中国の人たち 681 名が捕虜として入山し、約 1 年間に 191 名の方が亡くなりました。

今回、特筆すべきは新居浜市日中友好協会へ在日本中国大使館から協会の長年にわたる慰霊供養にたいして感謝状が届けられたことです。

戦後 70 年の節目となる今年、改めて多くの方の尊い命の上に今の平和があることを心に刻み、民間レベルでの持続可能な交流をさらに推し進めて行く必要があります。

ユネスコ部では「心の中に平和のとりでを築いていく」ために、負の遺産もしっかりと継承し、世界の平和へとつなげていきます。

(58) 夏井いつきと巡る 東洋のマチュピチュ東平 別子銅山産業遺産 俳句 ing Walking【10 月 3 日】



夏井いつきさんと記念写真



貯鉱庫跡の案内の様子



参加者とともに句をつくっているところ



句会ライブでインタビューされている様子

夏井いつきさんの俳句ライブ（新居浜市観光協会主催）が東平で開催され、136 人もの方々が参加されました。

遠くは滋賀県や大阪府からも参加された方がいらっしゃったほどです。

ユネスコ部はご参加くださった方を現地案内させていただく大役を任されました。しかも、今回は 2 年次生が中間審査中とあって、1 年次生のための編成でした。

始めに、夏井いつきさんから俳句の作り方についてポイントを分かりやすく教えていただきました。

その後、5 班に分かれてユネスコ部員が 1 時間 30 分かけて、東平地区から第三地区へと広範囲に渡ってご案内させていただきました。

最初は緊張して慌ててしまい、ミスも多くなってしまいましたが、お客様に温かく見守っていただいたり、優しく声をかけていただいたり、時には解説用のパネルを持っていたいただいたりと助けていただきながら何とかやり遂げることができました。

参加者の皆様からいただいたお礼の言葉はとても嬉しく、さらに良いガイドができるよう頑張りたいというエネルギーになりました。

夏井いつきさんにも優しく接していただき、ユネスコ部を時に触れ皆さんに紹介くださいました。

最後に、東平自然の家の食堂を会場に投句 LIVE が開催されました。本日の投句の中から、夏井いつきさんが選ばれた入賞句の発表や会場の皆さんによるグランプリの決定など、大変な盛況ぶりで、東平の青く澄み切った秋空に皆さんの楽しい声が響き渡りました。

今日、私たちユネスコ部の案内がヒントとなり、たくさんの句が誕生したことは、私たちにとっての「誇り」となる日ともなりました。

(59) 第 33 回 ESD 中学高校連携事業「別子銅山を学ぼう！」新居浜市立川東中学校【10 月 5 日】



講師を務めている様子



クイズを行っている様子

新居浜市立川東中学校体育館において、1 年生 161 名を対象に別子銅山登山事前学習を行いました

した。

本日中間考査を終えた2年次生の寺尾遙さん、谷下華さん、永易舞さんの3名が講師を務めさせていただきました。

川東中学校は新居浜市内で最も生徒数の多い学校ですが、落ち着いた雰囲気での学習を行うことができました。私たちの質問や投げかけには挙手をして積極的に答えてくれました。また、熱心にメモを取る姿もありました。クイズでも大変盛り上がり、多くの全問正解者も出て驚きました。

最後に生徒代表から「歴史が好きなので、とても楽しく聞くことができました。今日の学習を実際の登山に活かしたいです。」とお礼の言葉をいただきました。

(60) 平成27年度ESD環境教育プロジェクト事業【中間報告会】【10月7日】



中間報告会の様子



アドバイスをされる近森憲助先生

愛媛県立新居浜東高等学校会議室において、平成27年度ESD環境教育プロジェクト事業の中間報告会が行われました。

本プロジェクトは愛媛県教育委員会が主催し、今年度より始まった事業で、愛媛県下9校が取組を行っています。

東予地区では新居浜東高校、新居浜工業高校、本校の3校が4月より実践を行っています。

今回、鳴門教育大学副学長の近森憲助先生をESDコーディネータとしてお迎えし、3校の代表教員による中間報告を行いました。

会では、これまでの実践経過の報告や課題について意見交換を行った後、近森先生からご指導やご助言をいただきました。

実践報告では、各学校がそれぞれの環境に合わせて創意工夫しながら取組まれている様子が分かり、生徒の様々な活動の成果がある一方で、ご苦労やご努力の様子も伺うことができました。

特に課題においては、一部の関係者による実践ではなく、学校全体の取組としてどのように活動を広げるか、といった学校共通の課題について質問や意見交換が行われました。

近森先生からは、「ESD」の捉え方についてのアドバイス、各学校の取組についてのヒントや新居浜市内の現状にも触れていただきました。

そして、今後、3校合同のプロジェクトのご提案もいただくことができました。せっかくの市内3校ですので、共通項を見出し実践できることを早速企画してみたいと思います。

(61) 第34回ESD中学高校連携事業「別子銅山を学ぼう！」新居浜市立中萩中学校【10月9日】

新居浜市立中萩中学校体育館において、1年生151名を対象に別子銅山登山事前学習を行いました。

本日中間考査を終えた1年次生の横山伸子さん、古川若奈さん、田中陸矢くん、堤優弥くん、松浦理久くん、山内優花さんの7名が講師を務めさせていただきました。

中萩中学校は、田中くん、堤くん、松浦くんの母校にもなり、中萩中学校は、先日の川東中学校に次いで新居浜市内で生徒数の多い学校です。

今回は2年次生が修学旅行中で、1年次生のみが出前講座となりました。1年次生のみは初めてのことで、役割分担や時間調整がうまくいかない場面がありましたが、中学生の積極的な発表や熱心に聞く態度に助けられたりして、何とか終えることができました。

最後に、生徒代表から「今日学んだことを、登山の際にしっかりと役立てたい」と感謝の言葉をいただき、ほっとしました。私たちは、今回見つかった多くの課題を解決するために努力して行きます。



中学生が質問に答えている様子



生徒代表からお礼の言葉をいただいている様子

(62) スタディーツアーに向けて四阪島洋上研修【10月10日】

第9回スタディーツアーに向けて四阪島の洋上研修を行いました。

今回は1年次生のみ行いました。1年次生は、5月、7月とツアーで四阪島を訪れることはありましたが、研修としては初めてとなります。

ツアーと違い、じっくりと四阪島の産業遺産の位置やその様子を確認することができました。そして、改めて先人の偉業を肌で感じることができました。

ただ、ツアーでは限られた時間の中で、どのようにしてご案内すればよいのか、新たな課題も見つけることができました。

今後、これらを学校へ持ち帰り、しっかりとしたシミュレーションも行いながら、ツアーに向けた最高の準備を行っていきます。



初めて四阪島の洋上に到着した様子



今は無き四阪島大煙突の位置を確認している様子

(63) 別子山地区取材活動～大規模植林事業の発祥の地を訪ねて～【10月12日】

秋が深まり紅葉が始まった別子山地区への取材活動を行いました。

住友の植林事業ゆかりの地である「住友林業フォレスターハウス」や別子地区の歴史や自然・文化などを紹介している「別子ふるさと館」、別子銅山最後の坑口である「筏津坑（いかだづこう）」等を見学し、研修等を行いました。

今回は1年次生6名が活動を行いました。

始めに訪れたのは、「住友林業フォレスターハウス」です。残念ながら、月・火曜日は休館日で館内を見学することはできませんでしたが、屋外にある伊庭貞剛没後75周年（2001年）を記念して建立された記念碑を見学することはできました。

記念碑には、伊庭が新居浜を去る際に船上から詠んだ「五ヶ年の跡見返れば雪の山」という句が刻まれています。伊庭が心友の品川弥二郎に送った手紙の中の句です。品川はその句に「月と

花とは人に譲りて」と付け句しました。品川は、伊庭が苦難の季節を別子で過ごし、これから訪れる好期は次の人に譲ったことを称賛したのです。

また、この地は別子銅山の緑化に向けた様々な先人の知恵と努力の跡を見ることもでき、持続可能な森林管理が実践され続けています。まさに日本の大植林事業の地といっても過言ではないと思います。

続いて、別子ダムを県道から展望し、南光院近くにある余慶坑口跡を見学しました。現在、坑口は閉ざされていますが、入口の鉄骨アーチは一部が残されており、当時の様子を垣間見ることができました。また、県道側からズリ（鉱石でない石）を堆積した様子も見ることができました。ここでは、普段は何気なく通り過ぎてしまう景色も、改めて見つめ直す大切さを知ることができました。

「別子ふるさと館」では、別子銅山の露頭や銅鉱石をはじめ、産出される他の鉱物の標本や当時使用されていた道具などゆかりの品々、さらには動植物の標本、民族に関する資料など、まさに別子山が丸ごと体験できる素晴らしい展示館でした。近くには、新居浜市の天然記念物である

「^{おうけつ}甌穴群」があり、自然の造形の美しさや雄大さも感じることができました。

最後に、筏津坑口を見学しました。現在は、安全のために坑口内部へ入ることはできませんが、入口から覗いた内部には坑木や線路を見ることができ、当時の面影を直接感じました。

今日の取材活動を通して、別子山にはたくさんの魅力があることを知り、体感もできました。しかし、これはまだまだほんの一部に過ぎないと思います。これからも、取材活動を積み重ね、別子山の魅力をどんどん発見し、情報発信を行っていきます。



住友の植林事業の発祥の地にて



別子ダムを展望している様子



銅山川にある天然記念物の「甌穴群」を見学する様子



今は閉ざされた別子銅山最後の坑口「筏津坑」

(64) 総合的な学習の時間「ライフスタディⅡ」 東平地区フィールドワークその③【10月13日】

3年次生の総合的な学習の時間「ライフスタディⅡ」において課題研究が行われました。

総合分野を選択している生徒は3回目となる東平地区へのフィールドワークを実施しました。

標高750メートルとなる東平では、木々の色付きも見られ、秋の深まりを感じることができました。今回は、第三地区を訪れ、第三通洞、第三変電所などを見学し、東平時代の幕開けとなる

地で、当時の面影を辿ることができました。

また、快晴に恵まれ、少し肌寒かったですが、爽やかな風や緑豊かな自然も満喫することができ、充実したフィールドワークとなりました。



旧第三変電所にて



第三地区と東平地区を結ぶ鉄道用トンネル

(65) 岐阜県立可児高等学校 浦崎太郎先生 ユネスコ部視察【10月16日】

岐阜県立可児高等学校教諭の浦崎太郎先生が本校ユネスコ部の視察の為にご来校されました。浦崎先生は文部科学省中央審議会生涯学習分科会学校地域共同部会の専門委員も担われており、全国적으로活躍で多くのご実績をお持ちです。

本日午前中に愛媛県でのお仕事を終えられ、お疲れにもかかわらず本校にお越しくださいました。また、愛媛県教育委員会からもお二人ご同行されました。また、新居浜市議会議員の篠原茂様や本校総合学科育成会顧問の藤田勉様もご同席くださいました。

はじめにユネスコ部員から活動報告をさせていただき、浦崎先生をはじめ皆様との懇談のお時間をいただきました。

浦崎先生から、「部活動を通しての自分がどのように変わったか。」のご質問をいただきました。また、皆様からも進路や将来の夢についてもご質問をいただきました。

部員一人ひとりが、それぞれの思いを自分の言葉でお答えすることができていました。

最後に、浦崎先生から「他県の実績を持っている高校生と同じオーラを感じる」との高いご評価をいただくことができました。また、ご同席された皆様からもご期待の声をいただきました。

今回、浦崎先生との出逢いを通して、部員たちは自分を見つめなおし、現在の自分がいる位置、そしてこれからの自分について考える貴重な機会となりました。今後は、良きご報告ができるよう一人ひとりがそれぞれの目標に向けてさらに頑張ってまいります。



浦崎先生と歓談の様子



皆さんと一緒に記念写真

(66) 第35回 ESD 中学高校連携事業「別子銅山を学ぼう！」新居浜市立東中学校【10月19日】

新居浜市立東中学校体育館において、1年生141名を対象に別子銅山登山事前学習を行いました。

本日は、ユネスコ部部長の寺尾遥さん、副部長の谷下華さん、副部長の永易舞さんの3名が講

師を務めさせていただきました。

私たちの説明に真剣な眼差しで画面に食い入るように熱心に学習していました。

学習後のクイズにもほとんどの人が全問正解するなど、すばらしい学習成果も出ていました。

質問にも挙手をして積極的に答えてくれました。みなさん最後までしっかり学習されました。



質問に答えてくれている様子



真剣なまなざしで学ばれている様子

(67) 別子銅山記念館研修会～住友化学開業 100 周年回想写真展～【10 月 22 日】

別子銅山記念館において開催されている特別企画展に関する研修会を田尾邦雄館長様に行っていただきました。

住友化学は大正 2 年（1913）9 月住友本店の直営事業として新居浜に肥料製造所を設立し、大正 4 年（1915）9 月に過燐酸石灰・配合肥料の製造を開始、10 月に営業を開始、過燐酸石灰を初出荷しました。

その営業開始から 100 周年を迎え、事業の歴史を写真で回想する展示会が 10 月 1 日～31 日の期間開催されています。

今回は、閉館後の研修会で、田尾館長さんの特別なお取り計らいで開催することができました。

煙害克服から世界の化学メーカーへと発展してきた住友化学の歴史について分かりやすく説明をいただくことができました。

「農作物に被害を与えていた亜硫酸ガスを農作物を育てる肥料にした発想」「肥料製造のためにアメリカからアンモニアの製造技術を導入し、そのことが亜硫酸ガスを中和し煙害問題の解決へ大きなステップとなった」、「日本で始めてコンビナートの火が灯った」こと。

また、会社の名称が発展を遂げる象徴として変遷して行く様などを教えていただき、郷土への誇りや自信をさらに大きくすることができました。

さらに、初公開となった絵画「御代島と住友肥料製造所」（武田耕雪作、昭和 5 年頃）の解説もいただき、当時の情景が生き生きと繊細に描かれていて、その世界へと想いを巡らせることができました。今回学ばせていただいたことを、スタディーツアーに早速生かして行きます。



初公開の絵画を説明される田尾館長



見学の様子

(68) 第5回図書館学習会「鷲尾 story—鷲尾勘解治—」【10月23日】



図書館入口に設置された案内の様子



鷲尾ゆかりのお気に入りの場所です

本校図書館にて、第5回目となる図書館学習会を行いました。

来週に迫った文化祭の準備で忙しい中でしたが、30名近い生徒が集まり別子銅山について学習を深めました。

今回のテーマは「鷲尾 story」と題して、住友金属鉱山の初代社長である鷲尾勘解治をメインとしました。

講師は、2年次のユネスコ部部長の寺尾遥さん、1年次の堤優弥くん、松浦理久くん、横山伸子さんが務めました。

はじめに、住友三代目総理事の鈴木馬左也について復習や補足説明を行いました。

また、前回のクイズとなっていた伊庭艇貞剛の奥さんの名前は「梅子」さんでした。

その後、鷲尾の教えである「上下円融」や「共存共栄」について詳しく説明し、鷲尾の功績について近代化産業遺産のパネルを使用して解説も行いました。

受講した生徒からは、「まちを改めて学ぶことで沢山の魅力を知ることができた。」「先人の努力のおかげで、今の新居浜があると感じた。」などの感想をいただくことができました。

(69) 第9回新居浜建技労塾「『別子銅山・石見銀山』への誘い」学習成果の発表【10月26日】



発表会場の様子



活動の様子をパネルで展示

ユネスコ部は新居浜建設技能者労働組合において、昨年夏の石見銀山現地研修の学習成果について発表させていただきました。

平日 18:30 からの開催にもかかわらず、40 名近くもの方々にご来場いただくことができました。

また、日ごろお世話になっている皆様のお顔をも拝見させていただき大変感激しました。

新居浜建技労塾には第1回にも発表の機会をいただき、今回で2回目となりました。

「石見銀山の魅力をモニタリング～世界遺産の登録の謎を探れ！～」をテーマに、別子銅山と石見銀山の比較も行いながら発表しました。

世界遺産の意義や石見銀山の歴史、銀鉱脈の様子、灰吹き法、産業遺産、町並み、食べ物、住

民の意識など、現地を見学しながら高校生ならではの視点で学習した発表を興味深くご覧いただきました。

最後の質問コーナーでは、鋭い質問が飛び出し、回答に四苦八苦していましたが、そのことがさらに成長に結びつくチャンスとなっていました。

会場には、活動パネルや灰吹き銀、鳴き砂など、現地でいただいた実物資料も展示してご覧いただきました。

(70) 総合的な学習の時間「ライフスタディⅡ」 住友化学歴史資料館・遠登志橋^{おとし}の見学【10月27日】



住友化学歴史資料館の前にて



遠登志橋にて

3年次生の総合的な学習の時間「ライフスタディⅡ」において課題研究が行われました。

総合分野を選択している生徒は住友化学歴史資料館と遠登志橋の見学を行いました。

両者は共に国の登録有形文化財に指定されています。

住友化学歴史資料館では、住友化学が別子銅山の煙害問題を解決することから始まったこと、その煙から農作物を育てる肥料を作ったこと、その肥料の販売を始めて今年で100周年を迎えたことなどを学びました。

また、石油化学コンビナートの火が日本で始めて灯ったのも新居浜だということを知って驚いていました。世界の総合化学メーカーの住友化学がここから始まったことを知り、郷土への誇りを感じることもできていました。

その後、立川地区の遠登志橋を見学しました。紅葉を期待していきましたが、まだまだ本番はこれからといったところでした。昨年のウォークラリーで渡ったこともあり、その時のことを思い出して懐かしい様子でした。この橋はドイツから輸入され、建設110年目となり、鋼鉄製の橋としては日本最古級クラスです。また、橋には別子銅山稼動時に木製の坑内排水路が設置されており、新居浜地区と東平地区を結ぶ重要な役割としてだけではなく、環境対策も担っていたことを同時に学ぶことができました。

(71) ユネスコ部 文化祭でみきゃんとコラボ！【10月30日】



みきゃんと記念写真



ユネスコ部の展示会場の様子



ユネスコ部特製ケーキセット



見事完売でした

本校において 51 回目となる文化祭が開催されました。

ユネスコ部では、昨年に引き続き、愛媛県東予地方局と協働でユネスコ部の活動（昨年東京展で制作していただいた活動パネル）及び別子銅山紹介のパネル展示、昨年度行った石見銀山現地研修の学習成果の展示を行いました。

また、愛媛県のイメージキャラクターみきちゃんにもお手伝いしてもらい、文化祭を盛り上げてもらいました。

そして、2017 年の国体アピールとみきちゃんのゆるキャラグランプリ全国 1 位を目指しての投票も呼びかけました。

さらに新しい試みとして、ユネスコ部オリジナルのマチュピチュケーキとみきちゃんジュースも販売し、みきちゃんのおかげと部員の頑張りで全て完売し、大成功しました。

昨年の 50 周年記念文化祭を節目に、今年はユネスコ部としても新しい一歩を踏み出せた記念すべき文化祭となりました。

(72) 文部科学省 生涯学習政策局長 河村潤子氏 ユネスコ部視察【10 月 30 日】



パネル展示をご案内している様子



一同で記念写真

（前列中央が河村氏、前列右が牧野氏、前列左が浅野氏）

文部科学省から生涯学習政策局の河村潤子局長をはじめ、社会教育課主任の真部亮太氏、社会教育課の浅野有紀氏、さらには東京大学大学院教育学研究科の牧野篤教授、新居浜市教育長の阿部義澄氏、市民部長の関福生氏らがユネスコ部を視察されました。

本校ではちょうど文化祭の日で、ユネスコ部では別子銅山学習の始まった情報科学部時代からユネスコ部までの 15 年間の活動の軌跡をパネルで紹介した展示を行っており、ご来校早々そのパネルをはじめにご覧いただきました。

ご案内はユネスコ部部長の寺尾遙さん、副部長の谷下華さん、同じく副部長の永易舞さんが務めました。

その後、昨年度まで取り組んできた地域活性化プロジェクトの研究実践と現在までの活動を織り交ぜながら、プレゼンテーションを行いました。これらをご覧になり、河村局長様からは立派

な取組であると高い評価をいただきました。

また、今後も継続した取組に期待したいとお言葉もいただきました。そして、「地域とはどのくらいの範囲をイメージするか」「石見銀山と別子銅山の比較」「ユネスコ部で活動し、学んできて成長したと思うこと」などについてご質問をいただきました。

さらに、浅野有紀様からは「将来社会人になって地域にどのように関わりたいか」についてもご質問をいただきました。

三人はそれぞれのご質問にしっかりと答えすることができていました。最後に、寺尾さんたちは河村局長様と握手を交わしていただくなど、1時間ほどの短い時間でしたが、とても充実した貴重な機会をいただくことができました。

(73) 平成 27 年度 ESD 環境教育プロジェクト事業

第 1 回東予地区三校合同研修会～東平地区フィールドワーク～【11 月 3 日】



東平貯鉱庫跡を背景に記念写真



別子銅山の環境問題について説明している様子



模型を触ってもらい設備の仕組みを学ぶ様子



最後にお互いの感想を述べあっている様子

ユネスコ部の案内で別子銅山の環境問題をテーマに新居浜東高校、新居浜工業高校、本校の三校が東平地区においてフィールドワークを行いました。

各校ともそれぞれ独自のテーマで研究実践していますが、先日の中間報告会で、ESDアドバイザーである鳴門教育大学副学長の近森憲助先生より「市内の三校という恵まれた環境なので、三校合同での企画を実施してみても」とのご提案をいただいたことがきっかけとなり、今回初めての三校合同での研修会が実現しました。

各校の代表生徒は東平駐車場に集合。自己紹介の後、始めに東平歴史資料館を見学しました。ここでは、別子銅山の歴史や東平地区の産業・生活文化等について学びました。

その後、第三地区で第三通洞や火薬庫跡などを見学し、紅葉が見ごろを迎えようとする山の景色を楽しみながら別子銅山の環境問題について学びました。

ユネスコ部員がパネルを使って、鉱山開発による自然破壊と植林事業による自然回復の歴史について紹介しました。

さらに、坑内排水の処理について、坑内排水に模した硫酸銅液に鉄釘を入れる実験を行い、鉄

と銅の酸化還元作用を利用して坑内排水を浄化する仕組みを学習しました。

その後東平地区へ戻り、インクライン跡や貯鉱庫跡等も見学しました。

最後にお互いの感想を述べ合い、地元であって知らなかったことを知ることができた驚きの感想が多く聞かれました。

フィールドワーク中の何気ない会話を通して、お互いの親睦を深めることもできました。今後も合同研修会を企画し、相互交流を積極的に行い、学びと親睦をさらに深めていきます。

(74)「産業社会と人間」～新居浜の歴史と産業～で講師を務めました！【11月5日】



講師を務めた永易さん、谷下さん、寺尾さん



授業の様子

1年次生の「産業社会と人間」において、ユネスコ部員が講師として授業を行いました。

2年次生でユネスコ部部長の寺尾遥さん、副部長の谷下華さん、副部長の永易舞さんから別子銅山を中心として新居浜の歴史について学習しました。

別子銅山の環境問題の克服や閉山後の都市計画の中で、新居浜が持続可能な町として現在に通じる産業が生まれてきたことを当時の写真や現在の写真を織り交ぜながら学びました。

途中、質問を投げかけたり、クイズを出題しながら楽しく学んでいました。

また、1年次生の部員たちは先輩をサポートして、授業が流れやすくなるよう頑張ってくれていました。

授業の中で生徒が講師を務めるこのような学習スタイルは本校独自のものです。高校生同士がお互いに高めあえるような学びができることを目指しています。

(75) 総合的な学習の時間「ライフスタディⅡ」紅葉のピークを迎えた東平地区の見学【11月10日】



紅葉真っ盛りの東平にて



銅板レリーフの説明を受けている様子

3年次生の総合的な学習の時間「ライフスタディⅡ」において課題研究が行われました。

総合分野を選択している生徒は、これまで積極的に行ってきたフィールドワークも今回で最終回となり、最後に一番お気に入りの場所となった東平地区を見学しました。

ちょうどピークを迎えた紅葉で、別子銅山の近代化産業遺産が赤や黄色に彩られ、そのコント

ラストは見事で、生徒たちは感動の声を上げていました。また、紅葉狩りも楽しみ、別子銅山の自然の素晴らしさにも触れることができました。

そして、マイン工房では、銅板レリーフ作家の橋本育子さんにもお逢いし、銅板レリーフの作り方やその魅力について教えていただき、銅への親しみをさらに深めることもできました。

(76) 足尾銅山現地研修準備～銅板レリーフでネームプレートを作りました！～【11月14日】



伊藤さんと谷口さんにご指導いただいている様子



銅板レリーフ完成しました！

ユネスコ部は、今年度の現地研修として「足尾銅山」を訪れることとなりました。

その研修において、植樹体験活動を予定しています。本校工業科実習室において、研修の際に植樹した樹木に取り付けるためのネームプレートを銅板で制作しました。

この度、伊藤純子さんに制作をご指導いただきました。伊藤さんは、ご趣味で銅板プレートの制作をなさっており、一昨年前に修学旅行で来市した宮城県亘理高校との交流記念品「阿吽龍」の大型銅板レリーフを制作していただいたこともありました。さらに、本校の学校評価委員も担っていただいています。また、以前からユネスコ部の活動を応援していただいております。そのような縁から、今回のご指導をお願いさせていただきました。

ご多忙の中にも関わりませず、ご快諾いただき、この度、ご友人の谷口さんと一緒に指導していただきました。

銅板レリーフの制作は、ほとんどの者が初めてで、不安いっぱいのスタートでしたが、伊藤さんや谷口さんから、一つ一つの手順を分かりやすく示していただきながら制作し、約3時間かけて完成することができました。

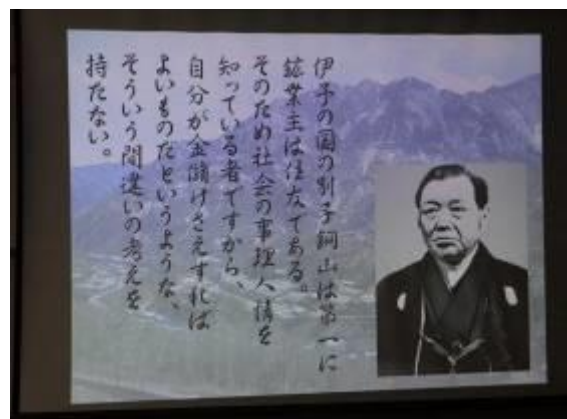
途中、銅板で手を切ってしまったたり、うまくいかないこともありましたが、励ましてくださったたり、手伝っていただいたりと、楽しく作業することができ、あっという間の時間でした。

そして、それぞれが自分の思いを込めた作品に仕上げることができました。足尾銅山で、自分たちの植えた木に取り付けるのが楽しみです。

(77) 足尾銅山現地研修事前学習会【11月14日】



事前学習会の様子



田中正造が別子銅山について述べた言葉

ユネスコ部では、毎年、別子銅山以外の鉱山関連の近代化産業遺産を学習するために現地研修を行っています。今年度は、栃木県の足尾銅山へ現地研修に行かせていただくこととなりました。

本校は、平成 27 年度 ESD 環境教育プロジェクト事業（主催：愛媛県教育委員会）に取り組んでおり、その関連事業としても行います。

本校 ICT 教室にて、その事前学習会を行いました。

1 年次生がこれまで学習してきた成果を発表しました。

足尾銅山の歴史、足尾と別子銅山との関連をはじめとして、ユネスコ世界文化遺産の日光東照宮、栃木県の概要やグルメ情報、さらには東京都内での楠正成銅像見学についてなど、今回訪れる場所での見どころやそのポイントを幅広く説明してくれました。これから、さらに学びを深め、現地で沢山のことを吸収できるよう準備していきます。

(78) 足尾銅山現地研修 1 日目～世界文化遺産「日光の社寺」の見学～【11 月 21 日】



世界遺産日光東照宮入口にて記念写真



プロのガイドから説明いただいている様子



陽明門は修理工事中でした



見事な彫刻の唐門の前で記念写真



徳川家康の墓を興味深く見ている様子



お目当ての宇都宮餃子で夕食の様子

2015年11月21日から23日の2泊3日の日程で、栃木県足尾銅山を中心に現地研修へ行かせていただきました。研修のテーマは「足尾に足を運ぼう！～足尾の光と影を見つめて～」としました。

研修の目的は、「日本の公害の原点」と位置づけられる足尾銅山を訪れ、過去と現在を体験的に学ぶこと。また、平成11年（1999）に世界文化遺産登録となった「日光の社寺」も訪れ、世界遺産登録の意義を探るとともにプロのガイドからその技術等を学び取ること。これらの学びを通して、自己の成長を図り、今後の活動に活かし、地域に還元することとしました。

1日目は、日光東照宮を訪れました。観光ガイドの飯島則和さんより案内をいただきました。

事前に学習してきたことをさらに深められ、ここでしか聞くことのできないエピソードもあり、生徒たちは飯島さんの語りひとつひとつに真剣な面持ちで聴き入っていました。

また、相手に合わせて様々なエピソードを盛り込み、ストーリー性を持たせながら、目に見えるものだけではなく、そのものに込められた想いを伝える姿は生徒たちの心を揺さぶり、ガイドの大切さや素晴らしさを学ぶ貴重な体験となりました。

生徒からは、「世界に発信できる、発信したい日本人の心が知れた」「徳川家康や家光のイメージが変わった」「日本史を学びたい、学ぶのが楽しみになった」「時代が変わっても変わらない大切なことがある」など多くの感想がありました。

さらに、飯島さんは自分たちのガイドだけではなく、周りの様々な観光客への配慮など、目配り気配りをされる姿も拝見でき、自分たちもガイドを経験していることから、自らの振り返りの機会ともなり、多くの学びを得ることができました。

そして、予定時間が超過する中でも、私たちのために優しく熱心に対応くださり、全てが感動の連続でした。夜は宇都宮で宿泊となり、お目当てだった「宇都宮餃子」もお腹いっぱい食べて、心もお腹も大満足の研修1日目でした。

（79）足尾銅山現地研修2日目～足尾銅山の見学と植樹体験～【11月22日】



小野崎 敏氏



坑内には電車で入りました



小野崎さんに坑内を案内していただいている様子



銅山で使用された機器などについて説明を受けている様子

研修 2 日目はいよいよメインの足尾銅山の現地研修でした。

本物の足尾との出逢いに胸が高まりました。

現地でガイドを務めていただいたのは、小野崎敏さんでした。小野崎さんは、足尾銅山御用の写真技師であった小野崎一徳の孫になる方です。

また、今回お世話になった NPO 法人足尾歴史館、NPO 法人足尾に緑を育てる会の創設にもご尽力なされ、足尾歴史館の副理事長をお務めです。

さらには、日鉄鉱業株式会社の名誉顧問でもあり、今年世界遺産登録された「明治日本の産業革命遺産」の岩手県釜石市の橋野鉄鉱山において、世界遺産登録にご尽力され、釜石応援ふるさと大使にも任命されています。

さらに、小野崎さんは新居浜にも何度もおいでになっていることもあり、足尾と別子の比較をしながらの解説は、私たちにとってこの上もない学びのチャンスとなりました。

この度は、大変ご多忙の中を、お住まいのある東京から駆けつけていただき、私たちのために丸 1 日かけてのガイドをお引き受けくださり、極めて貴重な機会となりました。

はじめに、足尾銅山観光を案内いただきました。トロッコに電車に乗って観光坑道に入りました。本物の坑道へ、しかもトロッコでそのまま入って行くリアルさに感動しました。

観光坑道は約 700 メートルあり、当時の様子をリアルな人形で再現されていました。別子銅山のマイントピア別子の観光坑道とも比較し、楽しみながら見学することができました。

また、「安全第一」のスローガンが、足尾銅山の「安全専一」という言葉から始まったことや、江戸時代には足字銭と呼ばれる寛永通宝も作られていたなど、別子銅山との違いも知ることができました。

続いて、観光施設と併設されている足尾市民センター内の足尾銅山文化交流館にもご案内いただき、足尾銅山の世界遺産登録をめざして頑張られている地元の方と触れ合う時間もいただきました。



足尾銅山のメインの坑道の前で説明をいただいている様子



江戸時代の足尾銭のモニュメントの前で記念写真



再現されたガソリンカー



掛水倶楽部

その後、足尾歴史館に移動しました。そこで、とっておきのプレゼントがありました。私たちのために特別にガソリンカーを走らせ、乗車体験までさせていただきました。ガソリンエンジン

の重厚な音と燃焼の匂いの中、元スケートリンクに敷かれたレールの上を軽快に走り、楽しい思い出のひとコマとなりました。

当館で昼食を挟み、小野崎さんのご出演されたビデオを視聴させていただき、今回時間の関係で訪れることができなかった場所なども詳しく知ることができました。

そして、館内の展示品について詳しく説明していただき、足尾銅山から生まれた技術や銅山の人々の心が現在にも引き継がれ、生きていることに感動しました。

また、塩野門之助のように別子銅山にもゆかりのある人物についても改めて知ることができました。

その後、足尾の迎賓館である古河掛水倶楽部も見学させていただきました。

東京駅を設計した辰野金吾による設計とお聞きし、大変驚きました。様々な工夫が施された和洋折衷の建物で、家具や調度品、国産第1号と言われるビリヤード台等、贅をつくした様々な物が当時のまま残っており、感動の連続でした。



「足尾に緑を育てる会」の皆さんと記念写真



環境の取り組みについて説明を受ける様子



植樹するための穴を掘っている様子



植樹の様子



木の支柱を立てている様子



食害防止用ネットを張り
自作した銅板プレートを取り付けて完了！

研修の最後には、銅親水公園と足尾環境学習センターで、足尾銅山の環境問題への取組について学びました。

そして、NPO 足尾に緑を育てる会の皆様にご指導いただき、植樹体験を行いました。

始めに、足尾の自然環境の現状や植林活動の歴史について学習した後、植樹の方法を説明していただき、4 班に分かれて作業を行いました。

時間が押してくる中、スタッフの皆さんが工夫をしてくださり、手際よく植樹することができました。植樹後、シカなどの食害から守るための網を設置しました。その網へ、私たち一人一人が学校で手作りした銅板プレートを取り付け完成しました。

木は 15 年ほどすると食害に遭いにくくなることから、網は取り外すそうです。しかし、その際にも今回取り付けたプレートは改めて取り付けてくださるそうです。

生徒たちは、将来また足尾へ来ることをスタッフの皆さんに約束していました。

これらの活動は、まだ 500 年先まで続ける必要があるとのこと。未来へ向けて、私たちもほんのわずかですが、お手伝いをすることができたことは生涯忘れることはありません。まさに、故立松和平さんがお話をされていた「足尾に木を植えるとともに、心にも木を植える」ことのできた体験となりました。

今回、非常に時間が限られた中でしたが、小野崎様のおかげで、足尾銅山の近代化産業遺産の素晴らしさや奥深さ、その中にこめられた先人の想いを知り、感じることができました。さらには地元の方々との交流も体験させていただくなど、私たちにとってかけがえのない研修の機会を与えていただきました。改めて、小野崎様はじめ、多くの方々に感謝申し上げます。このご縁を大切にさせていただき、今後、足尾銅山と別子銅山、日本を代表する銅山同士の連携を高校生の立場から深められるよう努力してまいりたいと思います。

(80) 足尾銅山現地研修 3 日目（最終日）～東京・楠正成銅像の見学～【11 月 23 日】



東京駅の前にて



皇居の二重橋の前にて



皇居前広場の楠正成銅像の前にて



プレートには「伊豫別子山銅」が刻まれています

研修 3 日目は最終日となりました。

宿泊地であった宇都宮を北陸新幹線で出発し、東京で途中下車し、皇居前広場に建立されてい

る楠正成銅像の見学を行いました。

楠正成銅像は別子銅山の銅でつくられています。別子銅山開坑 200 年を記念して、住友家が東京美術学校に依頼し制作、明治 33 年(1900)7 月に宮内庁へ献納したものです。台座には銅像制作について「伊予別子山銅」の銘が刻まれており、東京の中心においてふるさとの誇りを感じることができました。また、制作には高村光雲などが関わり、高村光雲作の国宝「老猿」は栃木の木で作られていること、

さらに、昨年開業 100 年を迎えた東京駅は辰野金吾が設計したことは有名ですが、足尾の掛水倶楽部も彼の設計であることなど、今回の研修は栃木・足尾銅山さらには別子銅山への不思議なつながりを感じることもできました。

この 3 日間、多くの皆様のご協力やご支援によりすばらしい充実した研修を行うことができました。ご支援くださった皆様に改めて感謝申し上げますとともに、今回の学びをさらに深め、今後の活動に活かしていくことはもちろん、地域の方々を始め、多くの皆様にさまざまな形で情報発信して広く伝えていきます。

(81) 産業社会と人間

『別子銅山近代化産業遺産フィールドワーク 旧広瀬邸訪問』事前学習会【11 月 26 日】



講師を務めたユネスコ部 1 年次生



事前学習会の様子

1 年次生の総合「産業社会と人間」において、旧広瀬邸訪問の事前学習を本校会議室で行いました。

講師は、1 年次生のユネスコ部員 7 名が務めました。

始めに、広瀬幸平の生い立ちについて紹介し、別子銅山を中心とした功績、人物像に触れ、旧広瀬邸の魅力について発表しました。

その後、新居浜市が制作したビデオ「遠図（ENTO）～広瀬幸平の残像～」を視聴しました。フィールドワークは 12 月 10 日に実施予定です。実際に現地を訪れ、広瀬の想いを感じてほしいと思います。

(82) 第 36 回 ESD 中学高校連携事業「別子銅山を学ぼう！」新居浜市立南中学校【12 月 4 日】

新居浜市立南中学校体育館において、1 年生 154 名を対象に別子銅山登山事前学習を行いました。ユネスコ部全員で講師を務めさせていただくことができました。

みなさんとても落ち着いた様子で、熱心に私たちの説明を聴いてくださいました。

クイズでは積極的に手を挙げて発表してくれました。また、大きな声で元気なあいさつでお礼を言うくださり、とても嬉しかったです。

実際の登山は 3 年生になってからということで、これからさらにふるさとの学習を深めて、実際の登山の時には、より充実したものになるよう期待しています。タイミングが良ければ登山の案内もさせていただきたいと思います。

ところで、南中学校は、2 年次の永易舞さんと 1 年次の横山伸子さんの母校で、恩師の先生との再会もあり、今日の活躍ぶりをとても喜んでいただきました。さらに、2 年次の寺尾遥さんと谷下華さんが泉川中学校の恩師にも再会でき、二人の成長ぶりに驚かれていました。



別子銅山産業遺産創造塾の
認定プレートを紹介している様子



クイズで盛り上がっている様子

(83) 第8回地域教育実践交流集会にて活動発表【12月5～6日】

国立大洲青少年交流の家を会場として、「子どもにかかわる団体が集まり、楽しくがやがやと情報交換を行うこと」を目的に、地域教育実践交流集会が開催されました。

本会は、地域教育実践交流集会実行委員会（実行委員長：讃岐幸治氏）が主催し、今年は文部科学省の「学びによる地域力活性化プログラム普及・啓発事業」の委託事業でもありました。

これまでは、中・四国が中心でしたが、今年は北海道から宮崎県まで、全国から300名を超える方々が集いました。

初日は15の分散会に別れ、ユネスコ部員は2年次生の3名が発表者として、1年次生はくじ引きで、他の分散会に参加させていただきました。

活動発表では、高校生の取組みを高く評価していただきました。参加者からは、部活動に入っただけのきっかけや、活動内容、「学びの絆サイクル」についての質問があり、部員たちは的確にお答えでき、感心された様子でした。

さらには、今後の活動へのアドバイスなどもいただくことができました。

また、大学生や大人の方たちとの交流の場では、各自のこれまでの活動を振り返る機会にもなり、自らの課題も発見できるなど、一人ひとりが成長の糧を得ることができました。

翌日の全体会では、新居浜市の高校生ボランティアグループMAYの皆さんによる発表もあり、様々な活動を地域を巻き込んで行っていることや取組む熱い想いに感動しました。

そして、交流のチャンスにも恵まれ、学校を越えた地元高校生同士でのコラボについても具体的に実践して行こうと誓いました。

会に参加することで、他県の方々と新しい出逢いや交流も生まれました。今後は、これらの出逢いを大切にして、さらに深め広げられるよう頑張っていきます。



分科会での発表の様子



高校生ボランティアグループMAYとの
交流記念写真

(84)「別子銅山 近代化産業遺産フィールドワーク in 旧広瀬邸」【12月10日】

「産業社会と人間」において、1年次生120名が旧広瀬邸、および新居浜市広瀬歴史記念館を見学しました。

旧広瀬邸では、1年次生のユネスコ部員がガイドを務めました。

邸内におすすめの7つのポイントを設け、班単位でそのポイントを巡るスタンプラリーも行いました。それぞれのポイントにユネスコ部員が待機し、同級生にそのポイントの魅力を語りました。同級生たちは、ユネスコ部員に質問したり、時には「語ってよ!」と催促するなど、楽しみながら学習を深めている様子でした。

あいにくの空模様でしたが、邸内は高校生の声が響き渡り、明るく和やかな雰囲気でした。

同級生同士で学び合い、共に高め合う姿勢にとっても感動しました。これまでの取組が大きく結実した思いがこみ上げてきました。



あいにくの雨の中での見学の様子



邸内は大変盛り上がりました



班の代表がスタンプをもらっている様子



全てのポイントを完了!

(85) 総合的な学習の時間「ライフスタディⅡ」 口屋跡公民館・旧星越駅舎訪問【12月10日】

3年次生の総合的な学習の時間「ライフスタディⅡ」において課題研究が行われました。

総合分野を選択している生徒は、「運搬の近代化」をテーマとして最後となったフィールドワークを行いました。

始めに、口屋跡記念公民館を訪問しました。口屋は別子銅山から大阪へ銅を運び出す玄関口となった場所です。公民館では、江戸から明治の頃の口屋を再現したジオラマを見学させていただきました。細部にわたりリアルに再現され、生徒たちは驚きの声をあげていました。

また、この9月に完成したばかりの立川仲宿のジオラマもあり、人による運搬や牛車による運搬の様子をつぶさに知ることができました。

そして、運搬の近代化となった鉄道について知るために、別子銅山鉄道の下部線（通称：下部鉄道）に建設された旧星越駅舎も見学しました。生徒たちは大正時代に建設されたレトロな雰囲気に魅了されていました。

また、この下部鉄道は学校のすぐそばも走っていたことやその線路跡が普段使っている自転車道に姿を変えていることに、改めて驚きの声をあげて感動していました。



再現された立川仲宿のジオラマを見学する様子



旧星越駅舎にて

(86)「高校生と一緒に別子銅山を探検しよう！in 角野」【12月16日】



児童を前に自己紹介する様子



誘導している様子



新居浜東高校生がガイドをしている様子



自分の住む町を見て喜ぶ児童たち

新居浜市角野公民館が主催して、角野小学校 6 年生 110 名が学校周辺にある別子銅山の産業遺産を高校生と一緒に巡りました。

この取組は、今年で 11 年目となります。案内役は、本校ユネスコ部員 10 名と新居浜東高校の梶本くんが務めました。このメンバーは、今年から始まった新居浜市主催の「別子銅山産業遺産創造塾」を受講し修了認定の資格を有しています。その学びを活かそうと、新居浜東高校と本校の初のコラボを実現させました。

また、道中の安全見守りとして、本校生徒 7 名がボランティアで参加してくれました。

さらには、角野地区のみなさんも見守り隊としてご参加くださり、世代を超えた交流の機会となりました。

4 つの班で学校を出発し、山根収銅所やえんとつ山（山根製錬所跡煙突）、山根グラウンド、別

子銅山記念館などを巡りました。

小学生は高校生の案内に熱心に耳を傾け、積極的にメモを取っていました。

高校生にとっても、自分の学びを振り返る良い機会ともなりました。また、道中はお互いに会話が弾み、楽しく親睦を深めていました。

冷え込みが厳しい中でしたが、小学生の元気さで吹き飛ばしていました。予定を越えた 2 時間近くのフィールドワークとなりましたが、ボランティアの高校生や見守り隊の皆さんのおかげで、みんな元気で無事に終えることができました。

(87) 新居浜市家庭クラブ交歓会～銅の折り鶴づくり～【12 月 18 日】



自作した銅の折り鶴を手に



製作している様子



世界にひとつだけの銅の折鶴完成！



完成した銅の折鶴と南高クッキー

本校会議室において、市内 5 県立高校から総勢 22 名の家庭クラブ役員が集まり、交歓会が開催されました。

その中で、ユネスコ部員がお手伝いをさせていただき、銅の折り鶴づくりを行いました。

銅の折り鶴には、銅は別子銅山、鶴は友好や平和の象徴として、さらには、ケースに組み込む際に愛媛県の特産品である水引きを使用し、今日の出逢いの絆をこれからも末永く結んで行こうとの思いが込められています。

プレゼンテーションや見本を使って、一つ一つの手順を確認しながら共同して制作していきましました。みなさん手際が良く、他校の高校生同士がお互いに交流をしながら、親睦を深め、思いのこもった世界に一つの銅の折り鶴を完成することができました。

銅の折り鶴と完成した歓喜の笑顔の輝きが部屋いっぱいにきらめいていました。

また、お土産には本校家庭クラブ手作りのクッキーをプレゼントしました。

クッキーは本校のイメージキャラクター「みなちゃん・なみちゃん」を模ったもので、クッキーの型は、新居浜工業高校が 3D プリンターによって制作していただいたものです。これも素晴らしい交流の証です。

今後も、市内高校の交流の輪が広がり深まって行くよう、ユネスコ部もお手伝いさせていただきます。

(88) 平成 27 年度 E S D 環境教育プロジェクト事業

第 2 回 東予地区三校合同研修会～PET ボトルラベルでしおりづくり～【12 月 22 日】



自作したしおりに手に



新居浜工業高校環境科学部生徒の説明の様子



しおり作りの様子



オリジナルのしおりが完成！（新居浜東高生）

新居浜工業高校において、新居浜工業高校 5 名、新居浜東高校 6 名、本校 10 名の総勢 21 名が合同研修会を行いました。

プラスチック素材やポリスチレンの性質について知ること、そして、ものづくりを通して分別意識を高めることなどを目的に、PET ボトルのラベルを再利用して、しおりづくりを体験しました。

今回の研修会の講師を務めてくれたのは、新居浜工業高校の環境化学科の皆さんでした。始めに、思い思いが持ち寄ったラベルを熱湯に浸し、瞬間に収縮するラベルを見て感嘆の声が上がっていました。

また、ラベルの中には収縮しない素材があり、同じプラスチック素材でも性質の違いを体験的に学ぶことができました。その後、アイロンで平らに伸ばし、はさみやカッターでふちを切り取り、一人一人がオリジナルのしおりを完成することができました。

そして、出来上がったデザインの意外性に一喜一憂し、お互いに各自の作品を見せ合うなど、楽しみながら自然に交流が深まっていました。

今後は、これまで取り組んできた学習の成果を、来年 1 月 19 日に本校で発表会を開催します。その時には、みんなとの再会が楽しみです。

(89) 平成 27 年度学校間交流研修会【12 月 23 日】

愛媛県立今治北高校大三島分校を会場に、高校生による地域活性化に向けたまちづくりについての研修会を行いました。

広島県立瀬戸田高校、愛媛県立弓削高校、今治北高校大三島分校、新居浜南高校から総勢 31 名の高校生が参加しました。

はじめに、今治北高校大三島分校の生徒によるガイドで、大山祇神社とその参道の町並みなどを見学しました。

その後、今治北高校大三島分校の図書館を会場に4つのグループに分かれ、各学校の取組や課題について発表し合い、各地域の課題と地域活性化に向けた魅力あるまちづくりについてディスカッションを行いました。

そして、メンバーが共同でポスターを作成し、全体で発表も行いました。

今回、県内外から同じ世代の者同士が同じ志を持って交流できたことは、お互いが良い刺激を受け、大きな収穫につながりました。今後に向けての新たな連携の絆も芽生えることができました。今回の研修で生まれた高校生の視点からの地域活性化を目指した新しいまちづくりの提案を、地域の方々と連携しながら実現できるよう高校生パワーで推進して行きます。



県内外の壁を越えて



ガイドを行う今治北高校大三島分校生



班でポスターを作成している様子



全体発表の様子

(90) 3次元レーザースキャナを利用した別子銅山の近代化産業遺産の撮影報告会【12月24日】

新居浜市消防庁舎4階にて、3次元レーザースキャナを利用した別子銅山の近代化産業遺産の撮影報告会が開催されました。

公益財団法人えひめ東予産業創造センター、有限会社高橋システム、新居浜市議会議員、新居浜市別子銅山文化遺産課、愛媛新聞社、新居浜南高校ユネスコ部などの関係者が参加しました。

この撮影については、えひめ東予産業創造センターのコーディネーターである下田直樹さん、高橋システムの代表取締役である高橋誠二さんから、以前ユネスコ部にお話があり、高橋システムにおいて3次元レーザースキャナを活用して別子銅山の近代化産業遺産を撮影することで、新しい活用方法を探ってみたいとのことから始まりました。

今回、別子銅山文化遺産課のご協力の下、旧端出場水力発電所の撮影に成功しました。

はじめに、下田直樹さんより、今回の経緯についてお話がありました。

続いて、高橋誠二さんより3次元レーザースキャナの仕様や撮影の様子、データ処理などについてご説明をいただいた後、コンピュータの中に再現された3D画像を拝見させていただきました。

写真によるVRとも比較しましたが、立体感や視点の自由度など、まさに目を見張るものでした。映し出される産業遺産のリアルさは、その場にいるようで、先人の偉業だけではなく、想いそのものまでも伝わってくるようでした。

今後は「産学官」での連携を図り、どのような活用方法があるかを探って行きたいと思います。
別子銅山の近代化産業遺産の保存・活用に向けて新たな一歩が踏み出されました。ますます楽しみが広がってきました。



下田さんより説明をいただいている様子



高橋さんより装置の説明をいただいている様子

おおばく
(91)「大鉈の唄奉納」の見学【平成 28 年 1 月 4 日】

「大鉈の唄奉納」が新居浜の大山積神社（別子銅山記念館）で行われました。
もともとは「大鉈祭」と呼ばれ、別子銅山の銅鉈石と祝い歌を奉納する新年の伝統行事です。
かつては、1 年間で最も良質の銅鉈石約 300 キロ（これを大鉈という）を鉈山労働者がしめ縄などで飾り付け、元旦に奉納していました。昭和 48 年の閉山後途絶えていましたが、別子銅山開坑 300 年祭時に銅山勤務経験者でつくる「別子銅山親友会」が復活させ、今年で 27 回目となりました。

復活後は、「大鉈の唄奉納」として、しめ縄などで飾り付けた約 2 キロの小鉈（こばく）を奉納しています。

ユネスコ部では、情報科学部時代から今回で 15 回目の参加となりました。

情報科学部・ユネスコ部 OB・OG の曾我部菖平さん、鴻上翠さん、河野みなみさんも多忙な中を参加してくれました。

また、今回は、今治北高校大三島分校の生徒も総本社である大山祇神社のご縁で見学に訪れ、先日の交流会からさらに親睦を深めることができるなど、今年もすばらしいスタートを切ることができました。



みんなそろって大山積み神社本殿前にて



大鉈の唄奉納を見学する様子

(92)「マイントピア別子で今治北高校大三島分校生徒と交流学習【1 月 4 日】

大鉈祭に見学に来ていた愛媛県立今治北高等学校大三島分校の生徒 4 名と、午後からマイントピア別子端出場ゾーンで現地交流学習会を行いました。

昨年末に開催した、大三島分校での学校間交流がきっかけとなり、今度はこちらでの交流会となりました。

昼食を共に取りながら、午後から、ユネスコ部員の案内で観光坑道を見学しました。

前回のお礼を兼ねて、全力で取り組みを行い、クイズや体験を交えて楽しみながら学習を深めることができました。

今回の現地交流学习を通して、お互いの良さをさらに認識でき、親睦も一層深めることができました。今後も、様々な機会を通じて、その絆をより強固なものにしていきたいと思います。



仲良く観光列車に乗って出発！



観光坑道内を案内する様子

(93) 平成 27 年度スポーツ推進委員新年研修会【1 月 10 日】

新居浜市スポーツ推進委員協議会主催による新年の研修会が角野校区で開催され、スポーツ推進委員 48 名が校区周辺に残された別子銅山の近代化産業遺産を巡りました。

その研修会のガイドをユネスコ部が務めさせていただきました。

角野公民館を出発し、山根収銅所、生子橋、別子銅山記念館とその周辺を見学し、最後に、山根製錬所跡の煙突が立つ生子山（通称：えんとつ山、標高 144 メートル）に登りました。

お天気にも恵まれ、春を思わせるような温かい日差しの下、先日放送された（再放送は昨夜でした）新春スペシャルドラマ「百年の計、我にあり」のシーンと重ねながら、先人の想いに馳せることができました。

委員の皆様からは、「よく勉強している」「もっと自信を持って堂々と」「ふるさとについて学ぶことは、将来さまざまなことにぶつかっても、自分に勇気を与えてくれるものだから、これからもがんばって活動을続けてほしい。」などのご感想をいただきました。

今後は今日の経験を活かしてガイドの技術をさらにレベルアップできるよう頑張ります。



坑内排水の浄化処理の実験を行っている様子



別子銅山記念館前でガイドする様子

(94) 泉川ふるさと塾「とっておきの 別子銅山 近代化産業遺産巡り」【1 月 16 日】

新居浜市泉川公民館にて、泉川ふるさと塾が開催され、ユネスコ部が学習成果を発表させていただきました。

テーマは、「新居浜の観光・歴史」学習会でした。ユネスコ部員が別子銅山の近代化産業遺産の中から選りすぐった、とっておきの産業遺産を、愛媛県東予地方局が制作したマップ片手に、現地を巡っているかのようにご案内しました。

18:00～20:00 という遅い時間にもかかわらず、20 名余りの方がご参加くださいました。
クイズや実験なども交えて、楽しく学んでいただきました。
私たちにとっては、まだまだ準備不足のところがあり心配でしたが、皆様に温かく支えていただき、無事に終わることができました。
今年、ユネスコ部員の半数は泉川校区出身で、ご来場いただいた皆様の中には幼いころからお世話になっている方々も多く、自分たちの成長した姿をお見せでき、喜んでいただきました。



泉川中学校出身者が挙手している様子



マップを使って案内する様子

- (95) 文部科学省初等中等教育局参事官付参事官補佐 廣田 貢氏 ユネスコ部視察【1月18日】
文部科学省の廣田貢氏が新居浜市民部長の関福生氏とともにユネスコ部を視察されました。
はじめに、今年度本校が取り組んでいる「ESD 環境教育プロジェクト事業」の学習成果について発表させていただきました。
その後、歓談の時間をいただくことができました。
その中で、私たちの取り組みの大切さについて高くご評価してくださいました。
また、ご自身の経験なども語ってくださり、出逢いの大切さや私たち自身のこれから進むべき道についても考える機会となりました。
和やかな雰囲気の中で楽しく充実した貴重な時間となりました。



廣田さんと一緒に



歓談の様子

- (96) 第 37 回 ESD 中学高校連携事業「別子銅山を学ぼう！」
新居浜市立川東中学校との交流学习【1月28日】

新居浜市立川東中学校に訪問して、1 年生の総合的な学習の時間「プロジェクト 21」において、新居浜市の産業について別子銅山を中心に学習を行っている班と交流学习を行いました。
これまでの体育館での学年全体の一斉形式ではなく、1～3、4 名程度の班に高校生が 1、2 名入ってのグループ学習の形式で行いました。
はじめに各班で自己紹介を行った後、事前にいただいた質問事項に答えていきました。
最初はお互いに緊張した面持ちでしたが、すぐに打ち解けて、時折、笑いも出るなど楽しい雰囲気の中で学習が進んで行きました。

本時は、これまで学習してきたことをまとめ始める時間でもあり、高校生のアドバイスでスムーズに学習が行えたと、ご担当の先生からも嬉しいご感想をいただきました。

高校生にとっては、中学生への言葉かけへのとまどいを始めとして、勉強の未熟さや準備不足に気付かされるなど、多くの学びを得ることができました。

今回の取り組みは、これまでの活動をさらに一步踏み込めた貴重なものとなりました。



始めのあいさつの様子



交流学習の様子

(97)「別子銅山を学ぼう！」地域の宝を学びましょう【1月31日】

新居浜市口屋跡記念公民館で「別子銅山を学ぼう！」が開催され、小中学生や地域の方々50名余りが参加され、別子銅山の歴史を学んだり、銅板を使った折り鶴を製作し、その講師をユネスコ部が務めさせていただきました。

始めに、別子銅山の歴史学習をクイズを交えて紹介しました。

みなさん、挙手したり発表するなど積極的に学んでくださいました。

銅板の折り鶴製作では、お父さんやお母さん、おじいちゃんおばあちゃんに手伝ってもらいながら、世代を超えて楽しく折り鶴を折る姿が見られました。

1時間ほどで、全員がけがも無く、家族の愛情も一緒に折り込まれている世界でたった一つの銅の折り鶴を完成させることができました。

最後に、地域の皆さんがご準備くださった豚汁で、心も身体も温くなりました。



一人一人の思いが込められた折り鶴を手に



銅の折り鶴づくりの様子

(98) 3次元レーザースキャナ導入による別子銅山の産業遺産保存・活用プロジェクト検討会②

【2月3日】

ひめ東予産業創造センターのコーディネーターである下田直樹さん、高橋システムの代表取締役である高橋誠二さん、土岐卓矢さんにご来校いただき、ユネスコ部員1年生とで今後の活動について検討を行いました。

始めに、下田さんから、昨年12月に行った撮影報告会後の状況についてお話をいただきました。その後、高橋さん、土岐さんにワークステーションを使用して、旧端出場水力発電所の前回のデータをもとに、写真画像を組み合わせることで、さらにリアルな映像にできることやデータ

を軽量化してインターネットで配布するための技術について説明していただきました。

また、撮影してデータ化した空間に 3D モデルを入れてシミュレーションを行うなど、様々な応用例についてもご紹介いただきました。

そして、3 次元データの活用方法について、見せていただいた映像の感想なども交えながら歓談させていただきました。

最後に、実際に 3 次元レーザースキャナを使用しての撮影も行っていました。

数分で撮影が終了し、表示されたあまりにもリアルな映像を見て、部員一同驚きと感動の声を挙げました。

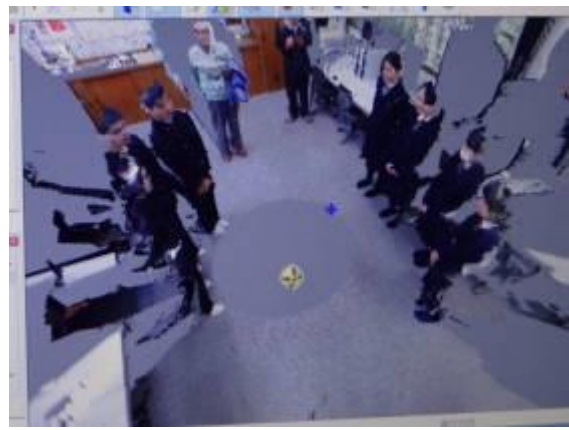
今後は、新居浜市との連携や撮影への高校生関わり方などについて、さらに検討を深めていきたいと思います。

高校生ならではの斬新なアイデアがますます求められてきそうです。

普段の活動の中で、どのような場面で役立てられるか、どんな可能性が広がるかなど、いろいろと思いを巡らしながら、どんどん夢を膨らませて行きます。



高橋さんが撮影の設定をされている様子



教室の様子を実際に撮影して再現した様子

(99)『新居浜を創った人からの伝言』パネル展の見学【2月6日】

新居浜建技労（主催）において、新居浜まちおこし委員会が資料提供し『新居浜を創った人たちからの伝言』パネル展が2月1日から7日まで開催されました。

ユネスコ部では、新居浜に貢献した人たちについてさらに学習を深めようと、見学させていただきました。

会場には、先人たちの写真パネルやそれに関わる資料などがたくさん展示されていました。

そして、新居浜まちおこし委員会の会員である石川勉さんから、これらの資料を詳しくまた分かりやすく説明をしていただきました。様々なエピソードを交えてのお話は、大変興味深く、知らないことも多くあり、数々の発見がありました。

説明後、これまで学習してきた中での疑問についても詳しく教えていただきました。その中でも、新たな知識を深めることができ、今後の活動に活かせる材料をたくさんいただくこともできました。これからそのことを皆さんにお伝えしていくのが楽しみです。



石川さんによる案内の様子



石川さんが生徒の質問に答える様子

(100) 『別子銅山パネル展 in 新居浜』において活動報告・ワークショップ【2月7日】

愛媛県東予地方局が主催し、新居浜市別子銅山記念館多目的ホールにおいて、ユネスコ部が活動報告やワークショップを開催させていただきました。

活動報告では、「未来へつなぐ別子銅山～地域の宝から世界の宝へ～新居浜南高校ユネスコ部活動の軌跡」と題して、活動のはじまった情報科学部から現在のユネスコ部まで 17 年間の活動を振り返りながら発表させていただきました。

これまでの先輩たちの努力や地域の方々の支えをいただきながらの活動に想いを馳せ、日ごろの自分たちの活動への想いも重ねながら感謝の心で、一つ一つ心を込めた発表を行うことができました。

また、ワークショップでは、別子銅山の近代化産業遺産をバーチャルでガイドさせていただきました。東予地方局の方に別子銅山の観光案内の地図をご用意いただき、その地図を頼りに巡って行きました。

会場には、日ごろからお世話になっている方々も多くご来場くださり、熱心に私たちの発表をお聴きくださいました。まだまだ準備不足の点も否めませんでしたが、精いっぱい務めさせていただきました。

そして、発表後は「良かったよ」と口々にお褒めの言葉をいただくことができました。お世話になった多くの方々に感謝の気持ちをお伝えできて本当に良かったです。今後も部員一同、感謝の気持ちで頑張ってまいります。



自己紹介の様子



活動報告の様子

(101) 平成 27 年度「ESD 環境教育プロジェクト」発表会【2月10日】

本校体育館において、愛媛県教育委員会が主催する本プロジェクトの 1 年間の活動成果を発表させていただきました。

ESD コーディネーターとして鳴門教育大学副学長の近森憲助先生にお越しいたき、新居浜東高校、新居浜工業高校、本校の三校合同で行いました。

御来賓として、愛媛県議会の古川拓哉議員様、愛媛県東予地方局地域政策課の山本泰士課長様、新居浜ユネスコ協会の青野正会長様をはじめとして多くの皆様をお迎えし、本校 1・2 年次生約 240 名を前に盛大に開催しました。

はじめに、本校ユネスコ部から、本プロジェクトの概要について紹介し、三校合同での連携した取組についても紹介しました。

そして発表に移り、新居浜東高校は家庭クラブや地域・国際研究部が中心となって、段ボールコンポスト、カボチャスイーツの研究開発、さらには販売、その売り上げをカンボジアの井戸建設につなげるなど、国外にも活動を広げたことなどが紹介されました。

新居浜工業高校では、環境科学部の生徒が中心となり、キノコの廃菌床による染料脱色材の教材開発、授業での実践、ペットボトルの葉づくりを通して、海外にも視野を広げるきっかけになったことなどが紹介されました。

本校では、別子銅山の研究について、これまでとは違った対話形式のプレゼンテーションを取り入れ、ESD をさらに推進していくために「学びの絆サイクル」づくりの大切さについて会場に呼びかけました。

最後に、近森先生からご指導・ご助言をいただき、三校それぞれが各校の特色を生かした取り

組みが行えていることに評価をいただき、ESD の捉え方についても分かりやすくお話ししました。

今後、私たちはこのプロジェクトで得られた成果をさらに発展・充実させていながら、得られた連携の絆を深めるとともに、活動の輪をさらに広げて行きたいと思います。



新居浜東高校発表の様子



新居浜工業高校発表の様子



新居浜南高校発表の様子



近森先生からご指導・ご助言をいただいている様子

(102) 平成 27 年度国際教育オープンフォーラム

～国際支援活動とユネスコスクール高校生交流～【2 月 13 日】



参加者全員で記念写真



本校の活動報告の様子

鳴門教育大学が初めて企画・主催し、徳島県教育会館において、四国四県の高校生が集まり、各校の活動報告を行い、さらに交流や情報交換を通して、ユネスコスクールの現状と課題について話合いました。

高知県からは「高知商業高校」、香川県からは「観音寺中央高校」、徳島県からは「ひのみね支援学校」、そして本校の 4 校が参加しました。最初はお互いに緊張した面持ちでしたが、すぐに

打ち解けて、お互いの学校や普段の生活などの話題に花を咲かせ、親睦を深めることができました。今回のことをチャンスとして、活動の連携の絆を深めていきます。



展示ブースでの交流の様子



現状と課題を話し合っている様子

(103) 平成 27 年度「教育フェスティバル」の見学【2 月 14 日】

新居浜市教育委員会主催による平成 27 年度「教育フェスティバル」が、新居浜市市民文化センター大ホールを会場に開催されました。

午前中は、「平成 27 年度新居浜市 PTA 連合会研究大会」として開催され、「ESD 児童生徒発表」「百年の計、我にあり」感想文コンクール発表」「こころのこぼれコンクール発表」等が行われました。

「ESD 児童生徒発表」では、新居浜小学校が学校ビオトープをテーマに、垣生小学校が防災をテーマに、泉川小学校が奉仕活動やあいさつ運動をテーマに、それぞれの取組やその成果について元気よく、分かりやすく発表しました。

「作文コンクール」では、今年の正月に放映された番組を観ての小中学生の感想文最優秀作品各 1 点が発表され、先人の苦労や努力、志を持つことの大切さ、自身も「百年の計を立てる人になりたい」という感動的な内容でした。それぞれ、広瀬幸平賞、伊庭貞剛賞として賞状が授与されました。

午後からは、第 3 回新居浜市小中学生ふるさと学習奨励賞の発表会が同じ会場で開催されました。今年は、1718 点、1902 名の応募があり、その中から特選 5 点、優秀 10 点、入選 16 点がありました。

そして、特選の 5 点について、発表が行われました。

新居浜と他地域との比較や伝説についての調査、郷土と戦争の関係、別子鉱山鉄道体験者からの聴き取り調査、日本で活躍した郷土の出身者など、どの発表も分野も多岐に渡り、長い時間と労力をかけた研究成果で、目を見張るものがありました。

今回の「教育フェスティバル」を通して、高校生にとっても新鮮な学びとなり、大きな刺激を受けることができました。さっそく、次の活動に活かせるよう頑張ります。



会場フロアでの活動ポスター展示の様子



ESD 児童発表の様子

(104) 第 8 回図書館学習会「バーチャルで巡る別子銅山 近代産業遺産」【2 月 19 日】

本校図書館に 20 名余りの生徒が集まり、今年度最後となる図書館学習会を行いました。

これまで学んできた内容を、ユネスコ部 1 年次生による解説と映像で振り返りました。

映像の中には本校イメージキャラクターの「めいちゃん」も登場させ、クイズなども交えながら学習を行いました。

別子銅山の始まりとなる歓喜坑を皮切りに、東平、煙突山、山根グラウンドなどの近代化産業遺産を楽しく案内しました。

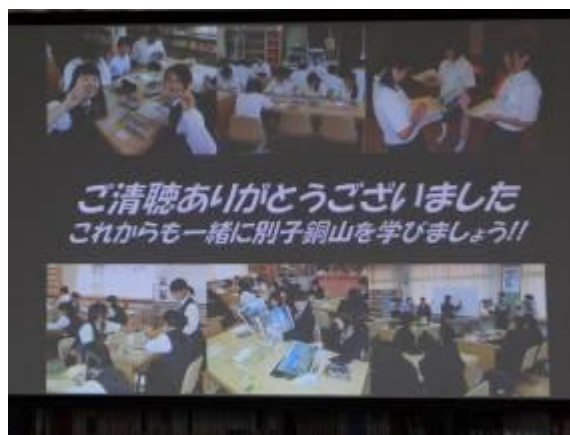
受講者は熱心にメモを取り、積極的に学んでいました。

今年度は、初めての試みで、準備不足や勉強不足のところもあり、課題の多い内容でしたが、ほぼ毎月の学習会に多くの参加者があり、校内に少しずつですが、学びの輪の広がりを実感できる機会となりました。

来年度は、これまでのことをしっかりと反省し、さらに充実した学びが展開でき、さらに多くの生徒に興味・関心を持ってもらうような工夫を考えて行きます。



学習会の様子



締めくくりのプレゼン画面の様子

(105) 新居浜市まちづくり協働オフィス市民活動交流会【2 月 20 日】



市長さん、MAY さん、ユネスコ部で記念写真



市長さんに認定プレートをご報告している様子

「市民活動を知り、理解し、共感しよう!」をテーマに、新居浜市まちづくり協働オフィスに於いて会議が主催し、リーガロイヤルホテル新居浜において市民交流会が開催されました。

新居浜市を中心として市内外から 42 の団体が参加し、ツインバスケットや手話、お手玉などの体験コーナーが設けられ、各種団体の展示ブースでは、それぞれが工夫を凝らして活動の PR を行っていました。

また、会場にはステージが設けられ、活動分野によって「まちづくりゾーン」「環境ゾーン」「福祉ゾーン」「次世代ゾーン」として、日ごろの活動についての発表も行われました。

ユネスコ部も「次世代ゾーン」において発表の機会をいただき、別子銅山の近代化産業遺産を紹介したり、ユネスコ部の活動を〇×クイズにするなど、会場の盛り上げに一役買っていました。

さらには、昨年 12 月に参加した国立大洲青少年センターでの研修会で交流が始まった「高校

生ボランティアサークル「MAY」さんたちとも再会することができ、さらに親交を深めることもできました。

日ごろお世話になってる方や新しい出逢いもあり、これをチャンスにまちづくりへの活動の輪をさらに広げて行きます。



ユネスコ部の活動発表の様子



MAYさんとユネスコ部の展示ブースの様子

(106) 地球村へようこそ！『第26回新居浜グローバルパーティー』【2月21日】

「JUST ONE WORLD!～世界は一つ～」を合言葉に、グローバルパーティーを楽しもう会・SGG 新居浜が主催し、新居浜ウイメンズプラザを会場に第26回新居浜グローバルパーティーが開催されました。

外国の方は15ヶ国71名、日本人を含めた総数は370名が参加しました。

本校からは、張永慶先生の中国語講座とユネスコ部がブースを設けさせていただきました。

ユネスコ部は3回目の参加となりました。

今回は、別子銅山の近代化産業遺産について、英語での紹介にチャレンジしようと、副部長の谷下華さんが中心となり英語での説明文を用意しました。

部員それぞれがお気に入りの近代化産業遺産を分担して臨みました。初めての英語での説明ということもあり、最初は緊張して躊躇していましたが、勇気を出して話しかけ、頑張って説明させていただきました。皆さんとても優しく、フレンドリーで、私たちの説明一つ一つうなずきながら聞いてくださいました。

今回の貴重な体験は、私たち一人一人の「心の中に平和のとりでを築く」大きな一歩となりました。これからも勉強を積み重ねて、ガイド力、語学力共に磨いていきます。



スタッフ等関係者で記念写真



外国人に英語でガイドしている様子

(107) 『ユネスコ世界寺子屋運動』【2月26日】

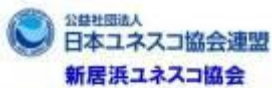
「日本ユネスコ協会連盟が主催し、新居浜ユネスコ協会と連携して、本校生徒会とユネスコ部が行ってきた今年度のキャンペーンの集計が行われました。

多くの皆さんからたくさんの温かい心をお預かりしました。

おかげさまで、ハガキ125枚、切手3,892円分、テレホンカード1,000円分、商品券1,000円

分が集まり、カンボジアでは 22 人の子供たちがひと月学校へ行けることになります。

ご協力いただいた皆さんありがとうございました。この運動は、年間を通じて行っています。



世界寺子屋運動

ハガキ・・・125枚
切手・・・3,892円分
テレホンカード(500円)・・・2枚
商品券(1,000円)・・・1枚

今回のご協力によってカンボジアでは
22人の子供がひと月学校へ行けることになります



みなさんのご協力ありがとうございました

このキャンペーンは年間を通じて行っています。
引き続きご協力よろしくお願いします。



愛媛県立新居浜南高等学校 生徒会・ユネスコ部

生徒が作成したポスター



集計作業の様子



回収したハガキや切手、テレホンカードなど

(108)「四国環境パートナーシップ表彰」【3月5日】

この度、本校ユネスコ部が環境省中四国地方環境事務所高松事務所長より、ESD 環境教育部門において「四国環境パートナーシップ表彰」を受賞しました。

香川県高松市センタービルで開催された表彰式において、特別講演の機会をいただき、講演後表彰を受けました。

特に今年度は、ESD 環境教育プロジェクト事業に取り組んできましたので、その成果として表彰いただくことは、時を得た大変光栄な機会となりました。この表彰はユネスコ部が代表としていただきましたが、学校全体としていただいたものと思います。今後は、この表彰をさらに高められるような志を持ち精進して行きます。



特別講演の様子



表彰記念写真

(写真後列左 上田健二高松事務所長)

3 まとめと今後の課題

今年度を振り返り、「活動の更なる広がり」と「若者のつながり」を強く感じる1年間でした。

「活動の更なる広がり」としては、課題であった校内への活動がさらに広がりを見せたことでした。

学校行事や総合的な学習の時間、ESD パスポートの全校生徒での取り組み開始、さらには放課後の図書館学習会など、関わりを持つ機会を提供するチャンスを創出することで、教職員も含めて活動や意識の広がりも見え始めていると感じました。

新年度は、生徒会活動の中にユネスコスクールに関する委員会を組織し、より多くの生徒が関わりを持てるような動きをさらに加速させて行きたいと思います。

校外的には、「ESD 環境教育プロジェクト事業」（愛媛県教育委員会主催）による市内高校、「国際教育オープンフォーラム」（鳴門教育大学主催）等による県外高校との連携が図られたこと、地域の公民館によるさまざまな企画により、小中学校との交流も活発になってきました。4年目となった市内中学校への別子銅山学習の出前授業も、一斉授業形式からグループ別の個別学習へと学習形態が広がられたことなど、若者同士のつながりのチャンスが様々な場面で展開されました。

また、文部科学省生涯学習政策局長をはじめとして、全国でご活躍されている東京大学、立教大学、可児高校等の先生方とも貴重な親交の機会をいただくことができました。

そして、これらの取組が、年度末に「四国環境パートナーシップ表彰」として実を結んだことは、地域の多くの皆様に多岐に渡る様々なご支援・ご協力をいただく中で、生徒たちが懸命に取り組んでくれた賜物であると思います。

関係皆様にこの場をお借りして感謝を申し上げます次第です。

今後は、小・中・高・大学、さらには地域における「学びの絆サイクル」を循環させるための仕組みづくりを、行政・企業・NPO など様々な分野と連携・協働し、持続発展可能な活動として推進して行きたいと思います。

（2）活動時間について（下記から選択して下さい。）

■ 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）

■ 時間外活動の時間を使用

■ ユネスコクラブの活動として実施

□ その他（ ）